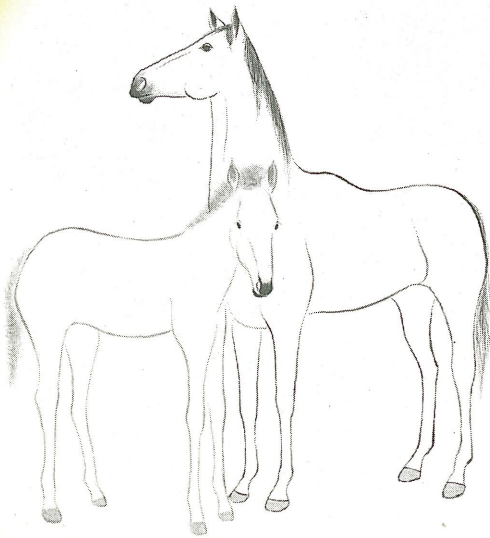


# 幼児の教育

第八十卷第二号

日本幼稚園協会

家庭・保育所・幼稚園

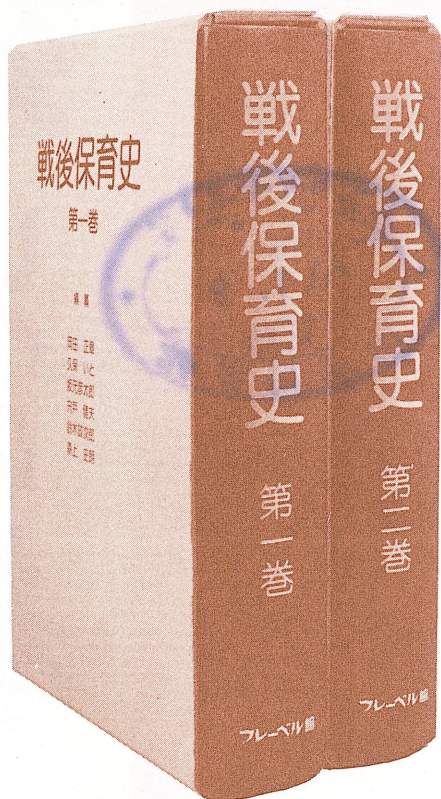


2

# 戦後保育史〈全2巻〉

A5判・上製本・セット定価・9,800円

編纂 岡田正章・久保いと・坂元彦太郎・穴戸健夫・鈴木政次郎・森上史朗



好評発売中!!

- ★日本で初めての“戦後保育史”です。  
幼稚園・保育所・幼児文化の三面から展開されている戦後保育史は、日本で本書が初めてです。
- ★行政も現場の動きもよくわかる戦後保育史です。  
法令や制度の背景、現場の受けとめ方などが浮き彫りにされていて、保育の歴史を総合的に理解することができます。
- ★豊富な証言による生きた戦後保育史です。  
歴史の第一線で活躍された方々の証言により、当時の状況が手に取るようにわかります。
- ★貴重な資料がいっぱいです。  
貴重な資料により戦後保育界の真実を伝える保育史です。全国各地の地方史も含まれています。

くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所または本社営業課(03)292-7781(代)にお問い合わせください。

フレーベル館



幼児の教育

第八十卷 第二号

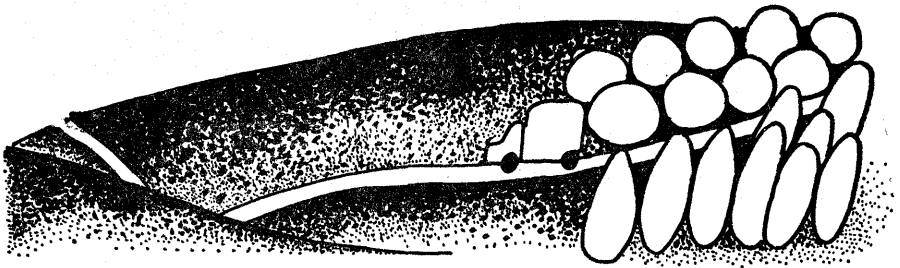
# 幼児の教育 目次

— 第八十卷 二月号 —

© 1981

日本幼稚園協会

ひとつの推論.....	佐藤文子.....(4)
幼稚園の定員を考える.....	福西基.....(6)
歴史人口学からみた生と死 二.....	鬼頭宏.....(13)
続・保育の中の小さなこと大切なこと ④.....	守永英子.....(22)
「いき」——憶い出の中から.....	水沼昭子.....(24)
呼吸のいろいろ.....	森下はるみ.....(26)
活人と殺人.....	原口愚常.....(28)
冬の息.....	豊田一秀.....(30)



わたくしのシルクロード ⑨……………横張和子…(32)

★海外文献紹介……………(40)

書評……………(42)

『復刻・幼児の教育』並びに懸賞論文募集のお知らせ……………(44)

クダケスタン・ジャポニ(イランの日本人

幼稚園)①……………進藤君枝…(49)

★倉橋賞受賞論文

イギリスにおいて絵本はどのように発達し

てきたか……………三宅興子…(52)

史料紹介

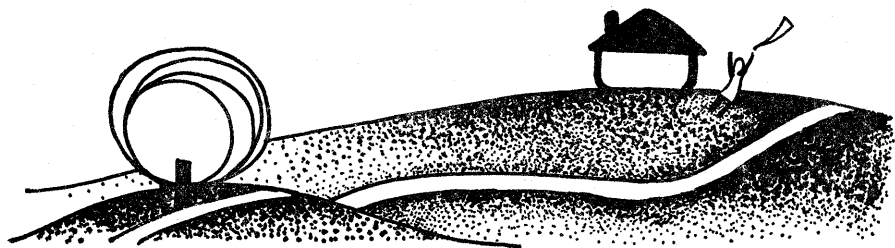
『邦訳 日葡辞書』

——わが国中世の児童文化史研究によせて……………(61)

表紙 紙・中村 宗弘

表紙題字・比田井和子

カット・福田 理恵



## ひとつの推論

佐藤 文子

過日ミンガン大学のステイブンス教授が来仙され、教授たちがペルーで行なった研究について話をきく機会がありました。

それは、学校に通うことが子どもの認知発達にどのような影響を及ぼすか、をテーマとしたもので、ペルーでは六歳児の就学率が53%で、この種の研究には好適の条件をそなえているということでした。子どもの就学については、家庭の社会経済的状況、親の学歴等さまざまな要因が関与しているが、結局学校に通うという要因のみが子どもの認知発達に有意に関係していることが知られたそうです。ペルーの教師の質は知識においてもモチベーションにおいても非常に低く、教育の内容や方法は共に問題にならない程お粗末だということです。それでは学校生活の何が子どもの認知発達を促進す

るのでしょうか。この点について教授は十分納得できるような説明はされませんでした。

私は、ほぼ十年幼稚園教員の養成にかかわりながら次のような事実に気づきました——これは単に気づいたというより私たちの教育実践的営みの反省としてみえてきたといった方がよいかと思えます——それは学生同士の人間関係が良好な学年は、幼稚園での子どもの観察も的確であり、またそれと対応して卒業論文などの成績も概してよいということです。ここで人間関係が良好であるというのは、ただ和気藹々といった雰囲気があるというようなことではなく、互いにそれぞれ

の長所短所を認め合いながら、共に成長するためにそれを

どう活し、補うかについて配慮し合える、互いの短所を指摘して相手を傷ついたり、あるいはひたすらかばい合ったりすることなく、各自のあるがままを受け合っている、そんな関係なのです。

ロージャズはカウンセリングの実践を通して、自分があるがままに受入れる時、その人は変化し、成長することを知りました。自分の中の矛盾や葛藤があるがままに認め、そのような矛盾や葛藤をもつ自分を受入れる時、その人の認知はより現実的となり、現実の要請により柔軟に適応できるようになるということです。ロージャズが個人について記述していることが、学生の集団においてみられるのです。

私はスティブンス教授の話をきき、また私自身の大学での学生や、幼稚園での子どもの観察を考え合せて、同年齢の子どもが一緒に生活すること自体、子どもの発達にとって重要なことなのだと思います。

複数の子どもが一緒にいる、そこに葛藤が生じ、解決していく程度で、子どもの認知は分化し体制化され、より現実的なものになっていく。しかしこれは非常にエネルギーを要することです。ロージャズは前述のような変化が生ずるために

は、個人が先ず他の人から受け入れられているという経験が必要だと考えました。カウンセラーから受け入れられているという安心感、それが不適応状態にある人の情緒を現実にもつて解放するのです。子どもが大人—子どもの人間関係において大人や親や保育者から受け入れられていると感じる時、子どもの心は子ども同士の世界という現実にもつて開かれるのではないのでしょうか。

子どもの認知はバラバラに発達するのではなく、体制化され、しかもそれが固定してしまうのではなく、現実と対応しながら柔軟に変化していくものでなければなりません。このような発達的变化が生じるためには、問題の解決についての方向性のような大人—子どもの関係において大人の価値観が子どもに示される時、子どもはそれにそった解決を子ども同士の横の関係で試みながら、自分たちの価値観を確立するのではないのでしょうか。

ベルーの学校の人間関係がどのようなものかは、はっきりわかりませんが、学生たちの人間関係とそこでの感情と認知の分化、統合の過程を観察しながら、子どもの認知発達の過程を推論してみました。

(秋田大学)

# 幼稚園の定員を考える

福西基

## ▼一学級当りの園児数

各幼稚園のクラス別収容人員の調査をしようとしても、その資料がないので、茨城県幼稚園連合会編「茨城県国公立幼稚園要覧」昭和55年度版によって、市町村別に分析した一部を紹介する。(第一表)

公立の一年保育では一学級は、その地域の幼児数そのまま  
が大部分で、四七人は二学級になっている点から四〇人を学  
級定員として編制されていると見てよい。然し、平均値で見  
ると三三人で、更にこれを日本私立連合会の「私立幼稚園の  
経営実態調査報告書」昭和53年度の集計によって検討してみ

た。

報告園三二六二園のうち、最も高い百分率で示された学級  
園児数は、五学級二二人〜一六〇人で、それぞれ、一五・  
八、一五・一を占めている。この学級数園児数を単純に平均  
して、二四人〜三二人と出るが、このあたりが平均数と見て  
いるわけである。

## ▼担任し得る園児数には個人差

本園の教員に担任園児数はどの位がよいかを聞いてみた。  
。現在、三歳児二六名を複数で担任しているけれども、五人  
位、早退や欠席して二〇人位になった時、一番眼が届きや



# 第一表 茨城県下・市町村別幼稚園の実態調

資料 茨城県国公立幼稚園要覧 昭和55年度版

市町村別	国 公 私	保育年 数(年)	園 数	園 児数	学級数	保育年数別 学級平均 園児数	公私立別 学級平均 園児数
水戸市 県庁所在地	国	2・3	1	153	5		30.6
	公	1	22	1,952	54		36.15
	私	2・3	5	1,108	35	31.66	31.21
		2	5	541	17	31.82	
勝田市 工業都市	公	1・2・3	2	536	18	29.78	28.71
		2	2	205	7	29.25	
	私	1	3	197	7	28.14	36.14
		2・3	1	493	13	37.92	
		2	2	450	13	34.62	
1・2・3	2	1,117	31	36.03			
日立市 工業都市	公	1	16	1,433	45		31.84
	私	2・3	3	491	16	30.69	31.39
		2	5	634	20	31.70	
		1・2・3	1	241	8	30.13	
		1・2	2	235	7	33.57	
取手市 発展途上都市	公		0				
	私	3	1	373	10	37.30	33.59
		1・2・3	2	652	20	32.60	
		1・2	1	80	2	40.00	
岩井市 発展途上都市	公	1	9	663	20		33.15
	私	1	1	120	3		40.00
下妻市 農村都市	公	1	5	231	7		33.00
	私	3	1	116	4	29.00	26.44
		2・3	1	122	5	24.40	
鹿島町 鹿島開発	公	2	5	1,065	28		38.04
	私	1・2・3	1	213	8	26.63	28.00
		3	1	179	6	29.83	
神栖町 鹿島開発	公	2	3	425	14		30.36
桜村 研究学園都市	私	3	1	236	6		39.33
	公	2	5	912	30		30.40
谷田部町 研究学園都市	私		0				
	公	1	1	112	3	37.33	31.58
		2	3	267	9	29.67	
私		0					
計			113	15,552	471		33.02

※同一市町村でも資料の不完全なものは除外した。

すい。

。あそんでいても友だちがなく、あそびがまとまらなかったり、友だちとの交りに片よりがでたりするので、二五人位のところ、三〇人では多すぎる。

。一七人というクラスの実験があるが、これではグループが固定していて、全体をまとめるのに困難を感じた。次の年度には二七人のクラスだったが、二二、三人というところが一番よかった。

。三歳児クラスならば一〇人程度が行き届いた保育ができて、最もよいと考えるけれども、劇あそび、合奏、または、普段の遊びとなると、この人数ではうまくいかない。

。前年度は二七人であったが、公立へ転園し二二人となったが、これでは少なすぎる。二四、五人程度。

。二七人を担任し、一、二人欠席者が出た時がとてもうまく行くような感じを持っている。二〇人では少なすぎる。

。三〇人をオーバーすると大変だと言う。それ程、いろいろのことで過重になるとは思わないけれども。

筆者が公立小学校時代に、作文を読んだり、採点をする仕事で、たしかに三〇人を越した頃からは、残りの枚数を数えたり、少しブラブラして再びとりかかった記憶は今も残って

いる。五〇人を越したら誰もが、一気に片づけることは無理だったけれども、それ以下の数では個人差はあっても、何とかなった。

何人になっても、その数に応じた処理法を発見した教師はいるけれども、個々の幼児を尊重し、幼児のうちに秘められたままものに刺激を与えて芽を伸びるような土壌を作るとなると、個々に応じた対応が要求されるので、どうしても三〇人あたりが限界か。

#### ▼保育の形態によって

筆者は戦前、公立小学校で五〇人から八〇人のクラスを担当したが、八〇人となると、二教室をぬいての部屋で、うしろの子どもの顔もさだかでなく、素直に命令に服従させる画一授業で終らざるを得なかった。また、公立青年学校長時代、女子は被服が中心で、個人的な指導はあったが、男子は主として軍事訓練であり、技術的に個々に指導はするけれども、全体的に一致することをねらったもので、人員が多い程、迫力があって指導のしがいを感じられたように見受けられた。

このような授業形態の場合は定員というか人員は問題とならなかった。ところが、本園の保育形態はあそびが中心で、

第二表 実習記録に出た園児名調

常磐短大2年・河面恵子の実習記録から

園児名	月日	6/9	10	11	12	13	14	16	17	18	19	20	21	23	24	25
1男				○		○		○				○		○	○	○
2女		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3男			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	欠	欠	○
4男			○	○	○	○	○	○		○	○			○	○	○
5男		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠
6男			○	○		欠	欠			○	○			○	○	○
7男		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		欠	欠	欠
8女		欠			○	欠	欠					○		○	○	
9男				○	○	○		○		○	○		○	○	○	○
10女			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
11男		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12男						○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
13男		○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○
14男			○		○		○	○	欠			○	○	○	○	○
15男			○		欠		○	欠	欠	欠	○			○	○	○
16女		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
17男			○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
18女		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19女		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○
20女				○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
21男					○	○	○		○	○	○					
22男			○	○			○		○			○				
23女		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		欠	欠
計	記録 出席	9 22	17 23	18 23	16 22	16 21	17 21	18 22	14 20	18 22	18 23	18 23	11 22	17 21	17 20	17 20

八時三十分頃の登園から、昼食前後の一時余と、二時の降園前三十分前を除いては、子どもたちは自由に遊びまわるといふのであるので、部屋の中での一斉保育がないために、園児の行動をとらえることとなると、困難なのである。

この六月に本園で実習した教育実習生に、特に依頼して、毎日の実習記録に、幼児とのかかわり、幼児のあそび、幼児のグループの構成具合など、できるだけ細かに観察記録をとるように願った。幸に、この実習生は本園の卒業生であり、住居も園に近い関係もあって寮生活をしていても、子ども顔と氏名が比較的よく捉えられたので、よい記録が残った。それにしてもこのクラスが二三人という園児数であることが一つの原因で、クラス担任ではとることができない記録となつたのだと考える。実習十六日間の記録に書かれた園児名を列記すると(第二表)となる。

#### ▼園経営の立場から

私立幼稚園側からは、経営という点についても考えねばならないと思ひ、さきにあげた日私幼の経営実態調査報告書から、最高の百分率の係数を抽出し、収支のバランスを検討した。(第三表)

人件費支出対保育料収入の比率が七一・七はまあまあいい

ところだろうが、昭和五三年度の集計で、俸給及び定期昇給額は現在からすると低いので、最低線で訂正し再度計算してみた。それに加えて、学級数を変動させて検討し、経営可能なギリギリの線を導き出そうと試みた。(第四表)

本表で明らかであるが、五学級でも人件費を少し多くすると、比率が八六・六となり、とても窮屈となることがわかる。二三人平均のクラスだと經常費補助金がなければ経営は不可能となる。平均三五人当りが最も当を得た園児数か。

#### ▼結論

戦後、小中学校にあっては大規模学校が優秀な学校という見方があって、幼稚園であっても三百、四百を志向するものも出てきた。然しこれは、現実に児童生徒の問題が続出して、社会的問題を提供しているように、知的なものが尊重され、人間としての個々の尊厳さなどはないがしろにされて、

○幼稚園教諭としてよりは、××学級教諭風な保育に走りがちで、園をあげて全職員がどの子に対しても対応する保育などは考えられない。保育年数にもよるが、百人以下の規模では保育面はよいが園経営から言つて困難であるので、一二〇から一四〇人程度の園となると思う。

これを何学級にするかいろいろの面から見たわけである

第三表 収支バランス検討表 <1>

条件		%		算出の基礎	
収容園児数	140	15.12		●教員給	
編制学級数	5	15.75		初任給	83,000
教員数	園長1	教諭6		一年経験	85,000
保育料月額	10,000円	18.82		二年経験	87,000
教員給	初任給	83,000	16.74	三年経験	89,000
	定期昇給	2,000	22.61	四年経験	91,000
	期末手当	5ヵ月	41.78	五年経験	93,000
	手当	5,000	22.28	園長	100,000
				●所定支出金	
				私学共済規定による	
				退職財団標準給与の	$\frac{40}{1,000}$
収入	保育料	$10,000 \times 140 = 1,400,000$			
支出	人件費	$\div 1,003,000$			
	俸給	628,000			
	期末手当	$628,000 \times 5 \div 12 = 262,000$			
	手当	$5,000 \times 7 = 35,000$			
	所定支出金	私学共済	52,124		
		退職財団	25,960		
人件費支出		百分率		71.65%	
保育料収入					

学級数		4	5	6
平均園児数		35	28	23
教員数	園長	1	1	1
	教諭	5	6	7
教員給		664,000	772,000	884,000
期末手当		277,000	322,000	369,000
諸手当		30,000	35,000	40,000
所定支出金	私学共済	47,000	56,000	65,000
	退職財団	23,000	27,000	31,000
人件費支出計		1,041,000	1,212,000	1,389,000
人件費支出		百分率		
保育料収入		74.36	86.57	99.21

が、理想的には二五人のクラス当りがよいと考えられる。この数を定員とするには、四〇人定員で三三人が平均であるという点からみて、平均学級当りの園児数は二〇人程度で、これではグループ活動にしても、全体的な合奏とか劇あそびとかいうものでは迫力がないのみでなく、子ども同志の交りもよくは行かないのではないかと思う。三五人定員、学級平均二八、九人というところだと、経営面では少し苦しいが妥当と言ってよいと思うのである。三〇人定員、学級平均二五人では理想であるけれども、経常費補助が、教育研究費管理費をカバーしてくれるのでなくては、経営に支障があるので、裏付けとなる経常費補助額によって、これは考えるべきだろう。

(茨城・下妻小友幼稚園)

訂正

七十九卷 十二月号 五ページ 五行目

一八五二年 ↓ 一七八二年

第四表 収支バランス検討表(2)

●条件			
園児数	140		
保育料月額	10,000		
人件費			
	俸給	標準給与	私学掛金
教員	84,000	84,000	6,972
	88,000	88,000	7,304
	92,000	92,000	7,636
	96,000	96,000	7,968
	100,000	100,000	8,300
	104,000	105,000	8,715
	108,000	110,000	9,130
園長	100,000	100,000	8,300
	退職財団掛金		
	標準給与 × $\frac{40}{1000}$		
	※千円未満切上げ		

# 歴史人口学からみた生と死 二



鬼頭 宏

## 江戸時代の人口——成長と停滞——

(一)

ガラス瓶に一つがいのハエを入れ、じゅうぶんなエサを与えておくと、数週間すぎたのちに、ハエはどれほど殖えるだろうか。アメリカの生物統計学者パール (Pearl) とリード (Reed) は、

偶然のきっかけからこのような実験を試み、その結果、生物個体数の増加に関する、きわめて重要な法則を一九二〇年に発見するにいたった。実験に用いられたショウジョウバエは無限に増殖することなく、一定のパターンで繁殖したのち、ある個体数に達すると、殖えも減りもしなくなったのである。

この増加曲線はS字型を示し、ロジスティック曲線と呼ばれる。実は一八三〇年代にフェアフルスト (Verhulst) が発表していたが、長い間、忘れられていたのだった。パールらの再発見以

後、たいていの生物にあてはまることが証明された。個体数の上限を規制する要因は生物の種によってそれぞれ異なるが、究極的には、食餌、あるいは営巣場所の不足など、個体数密度の上昇にともなう環境悪化であることが知られている。

ロジスティック曲線は原則として人間にもあてはまる。しかし、人間は技術を用い、環境に働きかけることによって、人口の許容上限を上昇させることができる。したがって長期的にみると、いくつものロジスティック曲線を積み上げるようにして、人口は増加してきたのである。

とはいえ、技術発展が緩慢であり、かつ、しばしば起きる飢饉、流行病、戦乱などの中断によって、前工業化社会においては、人口増加は遅々たるものであった。

鎖国によって海外との人口移動が厳しく制限されていた江戸時代の日本は、人口増加にかなする実験室のようなものである。江戸時代の全国人口は前半（十七世紀）に相当急速に増加したが、享保期以後は幕末に至るまで停滞的だったとされる。ビンの中のハエの増殖過程になんとよく似ていることだろう。

しかし、どうして江戸時代の人口は前半に著しい増加を見せながら、後半には停滞してしまったのだろう。たいていの高校日本史の教科書には、幕藩財政の窮乏と農村の疲弊（どちらも商品経

済の「発展」の結果、もたらされた）に追い打ちをかけるように襲った飢饉や疫病が、農村人口を停滞させた、という記述がある。実は、この問題に答えることは簡単なようできて、なかなか困難なことなのである。実際はどうだったのだろうか。まず全国人口の動きを調べることから始めよう。

## (1)

全国人口が初めて調査されたのは、八代将軍吉宗の享保六年（一七二一）である。十六世紀以来、諸大名によって人別改（人畜改、棟改）が行なわれてはいたが、初期の調査は地方的、かつ臨時的だった。したがって享保以前の全国人口を知るには、何らかの間接的な方法で推計するほかない。

近世初頭（一六〇〇年頃）の推計人口として、これまでもっとも一般的に受け入れられてきたのは、吉田東伍（一九一〇）の一八〇〇万人説だろう。この推計は、天正年間の全国総石高が一八〇〇万石だったことに基礎を置いている。吉田は、天保期の石高三〇〇〇万石が全国人口三〇〇〇万人に、また明治末年の米収五〇〇〇万石が五〇〇〇万人に対応することから、一石の米は人間一人を一年間養うことができると考えて十六世紀末の全国人口を一八〇〇万人と推定したのである。



しかしこの推定方法には問題がある。吉田は「石高は田土の收穫の見積」としたが、明治末の五〇〇〇万石と天正期の一八〇〇万石の意味は全く異なっていることに注意しなくてはならない。

前者は米の実収高であるのに対し、後者は、諸大名への軍役賦課、農民への年貢賦課の基準を、米石高で表現したものにすぎないからである。近世の石高は検地を実施したうえで決定され、ある程度、農業生産力を反映してはいるが、食料以外の作物を作る畑や屋敷地などに対しても、一定の石盛で石高がつけられた。したがって、米石表示による土地評価額とも言える抽象的な概念なのである。飯米に、酒や菓子なども含めた一人当り年間米消費量が一石であることを受け入れるにしても、一八〇〇万石の石高を、直接、一八〇〇万人に結びつけることはできない。

また、石高は大名の家格を表わす封建的土地所有の基準でもあったから、耕地の拡大や生産性の向上があったからといって、むやみに変えることは許されない。だから、天保期の三〇〇〇万石は公式的な「表高」であって、実際の米收穫量からは、さらに遠く隔った数値になっていたはずである。天保期の一石 $\equiv$ 一人の關係は偶然そうなったとみるべきである。

以上の理由から、吉田推計が近世初頭の全国人口を過大評価していることがわかるだろう。速水融（一九六八）は石高と人口の

間に相関関係の存在することを前提としたうえで、慶長元和期の小倉藩諸村に近世初期の石高人口比率を求め、全国人口を推計している（速水推計Ⅰ）。それによると一人当り石高は二・三 $\sim$ 三・六石になる。ここから石高に比例する人口は最大限でも八四万人（一八〇〇 $\div$ 二・三）、非農村人口を加えても、全国人口はせいぜい一千万人だろうと推計された。筆者の計算でも文禄の米沢藩、寛永期の肥後藩において、小倉藩に近似した石高人口比を得ている（鬼頭・一九七四）。ただし、いずれも当時の後進地帯である点に注意しておく必要があるだろう。

さらに速水（一九七五）は、石高人口比を利用するとは全く異なった方法によっても全国人口を推計し、一二七万人という数値を得ている（速水推計Ⅱ）。その方法は、十七世紀における諏訪郡諸村（信濃国）の人口増加パターンを、全国にあてはめるというものである。諏訪地方では近世前半の一五〇年間に、人口は三倍に増加したと考えられる。そこで全国を三つの地帯に分け、五畿内の先進地帯では一五〇〇年に、尾張から播磨にかけての中進地帯では一五五〇年に、その他の後進地帯では一六〇〇年に人口が増加しはじめ、一五〇年間で三倍になって極限人口に達するロジスティック曲線を仮定した。極限人口は一七五〇年の全国人口調査の結果が用いられている。こうして導かれた一六〇〇年の

全国人口は、やはり一八〇〇万人を大きく下回っており、それが過大評価であることを物語っている。

ここで紹介した吉田、速水Ⅰ、速水Ⅱの三推計は、一〇〇〇万人から一八〇〇万人と相当大きな開きがあるけれど、いずれにしても近世初頭の人口一千万人台である点で共通している。またどれをとっても、一七二一年までの人口増加率が、それ以後と比較して、きわだつて高いことを示している。今はそのことがわかればよいだろう。一七二一年人口を三〇〇〇万人とすると、吉田推計の場合でも〇・四%、速水推計で〇・六%、速水推計ではなんと〇・八%も年平均増加率になる。工業化以前の社会としては異例に高い人口増加率と言うべきだろう。

江戸時代以前の人口を知ることがきわめて困難だが、大雑把な比較を試みよう。全国の遺跡分布に基いた最近の研究によると、縄文時代中期(四四〇〇年前)の人口は二六万人、弥生時代(二一〇〇年前)の人口は六〇万人と推計されている(小山・一九七八)。またこの推計の基礎的数値を提供した沢田吾一の研究によれば、奈良時代(八世紀)の良民人口は五六〇万人、奴婢等を加えた総人口は六七〇〇万人と推計されている(沢田・一九二七)。荘園制の時代には中央政府の力が衰え、人や土地の全国的な把握を行なう力も関心も失なわれてしまったので、残念ながらいささ

かでも信頼できる数値を得ることができない。それでも、長期的にみて、近世に至るまでの人口増加率がきわめて低かったことがわかるだろう。

それでは近世前半の人口増加が、長い間の停滞を打破って、いつ、どのように始まったのだろうか。この問いに答えることは、速水推計Ⅱで示した仮定の根拠について説明することでもある。前期の人口増加の根本原因は経済的枠組の変化に求められる。

荘園制のもとでは、農民の生産意欲を刺激するような誘因が乏しく、農業生産は貢納と自給が中心で停滞的だった。経営組織は、名子や譜代下人などの隸属農民を利用する名主経営を主体とし、生産効率は低かった。

ところが十四世紀頃に年貢の貨幣納が行なわれたり、荘園市場が生まれたりすることによって、農村にも経済的誘因が及ぶようになる。ことに近世にはいつてから、城下町を初めとする都市的集落が数多く建設されると、大規模な都市の消費需要が形成されることになった。食料品や原材料への都市の需要は、農民に販売目あての生産を促し、農民はこれに依って利得をあげるために、効率のよい生産方法を選ぶようになる。このようにして耕地の拡大と農業技術の改良が進められたが、生産性の向上は、農民世帯の変化によっても実現された。名主経営から労働意欲の高い小農

民経営へと変質したのである。親とひとり子の家族からなる直系家族が新しい時代の中心になった。小農民世帯の成立は傍系親族や隷属農民の自立をもたらしたが、それは生産性を向上させるとともに、人口増加の原因ともなった。かれらの自立が有配偶率や出産力を高めた結果、出生率が上昇する一方、衣食住すべての面で生活水準が向上し、死亡率が改善されたからである。

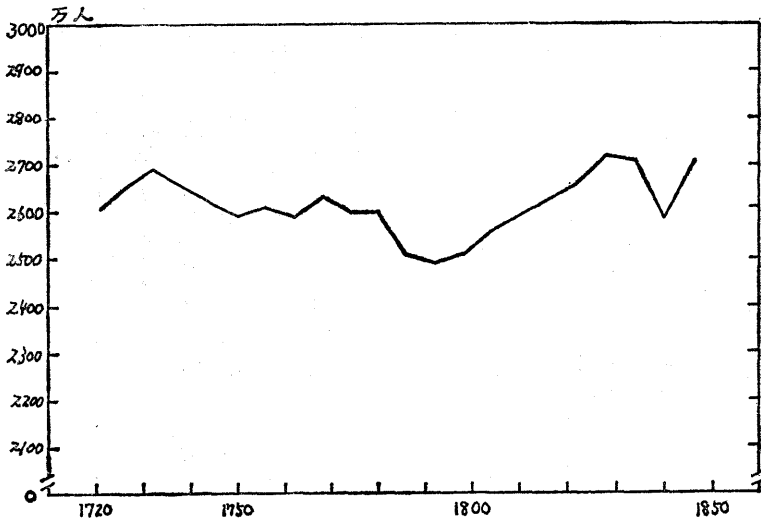
このような一連の社会・経済的变化は、近畿地方で十五、六世紀に始まり、十六、七世紀には全国へ波及していったと考えられる。近世前半は、ひとつの人口革命の時代であった。

(三)

一世紀以上続いた人口増加は、十八世紀になって終熄する。一七二一年に開始された幕府の全国人口調査の結果は、今のところ一八四六年まで十九回分が知られている。それによると一七二一年の全国人口は二六〇五万人、一八四六年は二六八四万人で、二五年間の増加率は四%にも満たない。年平均増加率は〇・〇三%にすぎず、停滞していたも同然であった。

しかしこの調査には、武士などの身分による除外や、藩によっては小児の除外があるほか、都市住民には調査から漏れた人口も相当数、存在すると考えられる。除外人口、脱漏人口は調査人口

江戸時代後半の全国人口 (1721~1846年)



(註) 数値は幕府の調査結果のまま、補正は加えていない

の二割、あるいは四、五〇〇万人にのぼるといふ推計(関山・一九六九)もあり、しかも、それは幕末に近づくほど多くなつたと推定されるので、実際には全国人口は僅かに増加したと言ふべきだろう。かりに一七二一年の人口を二割ふくらませて三一二八万とし、明治六年(一八七三)の推定人口三三四〇万人と結ぶと、一五二年間の増加率は六・八%、年平均増加率は〇・〇四%になる。それでも享保以前の増加率とは較ぶべくもない。

一七九八年に『人口論(人口の原理)』を著わしたマルサス(Malthus)は、人口は幾何級数的に増加するが、生活資料は算術級数的にしかふえないので、いづれ人口は戦争、悪徳、飢饉などの発生によつて制限を受けざるを得ないと警告した。これは人口の負のフィードバックと呼ばれる現象で、人口増加によつて一人あたり食糧獲得量が減少し、死亡率が高まることによつて、再び人口がもとの水準にひきもどされてしまふ、均衡のメカニズムなのである。

江戸時代には大規模な飢饉が何度かあつたし、間引きや墮胎などの不幸な風習が存在したことが、同時代からも現代人からも強調され、批難されてきた。日本の人口は飽和状態に達して、マルサスの畏に陥っていたのだろうか。たしかに全国人口を見るかぎり、それを裏付けているようである。しかしながら地方人口の動

向をみると、そのような見方が単純で、一面的であることがわかる。

表(次頁)を見ていただきたい。エゾと琉球を除く六八国が、自然的条件と社会・経済的条件を考慮して十四の地域にまとめられている。全期間の人口変化率をみると、陸奥、北関東、南関東、畿内およびその周辺で人口が減少しているのに対し、二〇%以上も増加した地域が西南日本に四地域も存在している。すなわち全国人口の「停滞」は、人域人口の動態が合成されてたまたまそうなつたと言ふべきだろう。増加地域も減少地域も存在するという多様性こそ、近代以前の人口の特徴である。

この点とはかく見落されがちであるが、なぜ大きな地域差が生じたのだろう。疑問を解く鍵のひとつは災害年と平常年の人口変化のパターンに求められる。江戸時代後半には、享保、天明、天保の三大飢饉が知られている。表中の災害年の人口変化率は、全部で十一回わかる国別人口のうち、一七二一―五〇年、一七五六一八六年、一八三四―四〇年の人口変化を、一七二一年人口で除して得られた。全期間の変化率から、これを減じたのが平常年の変化率である。

災害年の人口変化は全国で九%の減少であるが、東北、関東、北陸、近畿で減少率が大きいのに対して、東海および西南日本で

## 地域別人口の変化

地 域	享保6年 人 口	弘化3年 人 口	全 期 間 変 化 率	災 害 年 変 化 率	平 常 年 変 化 率
1. 東 奥 羽	1962839	1607881	-18.1%	-28.2%	+10.1%
2. 西 奥 羽	877650	912452	+ 4.0	-19.7	+23.7
3. 北 関 東	1841957	1328534	-27.9	-16.1	-11.8
4. 南 関 東	3281746	3109944	- 5.2	- 7.7	+ 2.5
5. 北 陸	2155663	2534477	+17.6	-15.7	+33.3
6. 東 山	1052147	1191309	+13.2	- 3.4	+16.6
7. 東 海	2201831	2434061	+10.5	- 0.9	+11.4
8. 畿 内	2249792	1998737	-11.2	-16.9	+ 5.7
9. 畿内周辺	2816804	2672179	- 5.1	-10.6	+ 5.5
10. 山 陰	978447	1208875	+23.6	- 4.3	+27.9
11. 山 陽	2023970	2433799	+20.2	- 2.5	+22.7
12. 四 国	1532131	1943146	+26.8	+ 2.3	+24.5
13. 北九州	1987553	2123634	+ 6.8	- 3.9	+10.7
14. 南九州	1087276	1344411	+23.6	+11.8	+11.8
合 計	26049806	26843439	+ 3.0	- 9.0	+12.1

(1) 地域に含まれる国名

●東奥羽：陸奥 西奥羽：出羽 ●北関東：上野，下野，常陸 ●南関東：武蔵，相模，上総，下総，安房  
 ●北陸：佐渡，越後，能登，加賀，越前，若狹 ●東山：甲斐，信濃，飛騨 ●東海：伊豆，駿河，遠江，三河，尾張，美濃 ●畿内：山城，大和，和泉，河内，摂津 ●畿内周辺：近江，伊賀，伊勢，志摩，紀伊，淡路，播磨，丹波 ●山陰：丹後，但馬，因幡，伯耆，出雲，隠岐，石見 ●山陽：美作，備前，備中，備後，安芸，周防，長門 ●四国：阿波，讃岐，伊予，土佐 ●北九州：筑前，筑後，肥前，宍岐，対馬，豊前，豊後 ●南九州：肥後，日向，大隅，薩摩

(2) この表は速水(1975：p.55, 第1表)をもとに，最近発見された1840年の人口を加えて作成された。

は小さい。四国と南九州では災害年ですらプラスになっている。この地域差は江戸時代後半の凶作の原因に関係がある。一八〇〇年を中心とする一世紀は、「小氷河期」とも言われて、世界的に氣候が寒冷化した時代だった。ウソカの被害による享保期を除くと、天明、天保、そして宝暦、慶応の凶作は、いずれも稲の成育・完熟期の気温低下、霖雨、日照不足によってもたらされた。冷たい風を送りこんで凶作の原因となるオホーツク氣団の影響を、直接こうむる東北地方太平洋岸と北関東で人口減少率が大きくなったのである。反対に、干魃になりやすい西南日本では、むしろ適当な降雨があつて被害は小さかった。

一方、平常年の人口増加率は十二％と、かなり高いが、ここにも地域差が認められる。西南日本はもちろんのこと、東北、北陸でも増加率は大きい。ところが関東、近畿では、平常年ですら人口増加率は小さく、北関東においては四％ものマイナスになっている。平常年に人口が増加するのは当然だとすれば、なぜマイナス、あるいは低率

かが問題になるだろう。

四地域に共通することに、都市人口が多いことがあげられる。

明治八年版『共武政表』によると、人口五千人以上の都市人口比率は全国で一三%あったのに対し、北関東と南関東を合せて二一%、近畿地方では一九%のほり、北海道を除くどの地域よりも高い。

都市の存在が地域人口の停滞をまねきやすいのは、工業化以前の社会に共通する特徴なのである。現代とは異なり、工業化以前の都市の生活環境は農村と較べて、著しく劣っていた。高い人口密度、狭い住居に加えて、不衛生な上水、下水道の不備、運輸手段の未発達などは、平常時においても都市の死亡率を高めていた。反対に出生率は農村よりも低く、都市内部で人口を再生産することができなかった。都市人口を維持するためには、周辺農村部からの不断の人口流入を必要としたのである。江戸を含む関東、大阪、京都、奈良を含む近畿地方において、平常年でも人口増加率が低かったのは、商業発展の象徴と言うべき大都市の存在に原因があったと考えられる。

(四)

しばしば、江戸時代後半の人口停滞は経済行詰りの現われだと

言われる。しかし、これまでみてきたことを受け入れるなら、江戸時代の人口と経済発展の関係について、考え方を修正する必要があるであろう。

たとえば、経済発展が商業、手工業の拡大をもたらし、都市の成長を伴うとすると、むしろ都市周辺の人口は停滞してしまうこともありうるのである。したがって江戸時代後半の全国人口の停滞は、かならずしも経済成長が存在しなかったことを意味しない。

さらに、あえて言うならば、さまざまな方法で実行された出生抑制は、経済成長以下に人口増加を抑えたので、一人あたり所得水準を向上させたと考えられることもできる。間引きや墮胎は、マルサスの言う「積極的制限(死亡率の上昇による人口増加の停止)」であることにちがいないが、むしろ出生率の抑制を意図する「予防的制限」に代わるものだったのではなからうか。避妊の知識や技術が不確かな時代に、真に悲惨な最低生存水準に陥ることを避けて、不幸を最小限に抑える効果が期待されたのである。少くとも結果的にそうなった。ハンレーとヤマムラの最近の研究(Hanley and Yamamura, 1977)は、このような立場から江戸時代の人口と経済の関係を、初めて体系的に説明している。

これまで述べてきたことは、江戸時代の全国人口の停滞をめぐ

る通説に修正を迫るものである。しかし、僅か百年ほど前までのことなのに、江戸時代の人口について、まだよくわからないことが多いのも事実である。徐々に蓄積されてきた歴史人口学の成果をもとに、複雑に絡みあった人口と社会、経済を結び糸をとぎほぐす作業を、さらに進めることにしよう。  
(上智大学)

〔参考文献〕

Hanley, S.B. and Yamamura, K. 1977 *Economic and Demographic Change in Preindustrial Japan, 1600-1868*, Princeton University Press.

速水融 一九六八 『日本経済史への視角』 東洋経済新報社。

速水融 一九七五 「江戸時代の人口趨勢」 新保博・速水融・

西川俊作『数量経済史入門』日本評論社、四二一六〇ページ。

鬼頭宏 一九七四 「2近世」 社会工学研究所『日本列島にお

ける人口分布の長期時系列分析』（報告書）四二一七一ページ。

Koyama, Shuzo 1978 *Jomon Subsistence and Population*, *Senn'i*

*Ethnological Studies* No. 2, pp. 1-65.

沢田吾一 一九二七 『奈良朝時代民政経済の数的研究』 富山

房。

関山直太郎 一九六九 『近世日本の人口構造』（再版）吉川弘

文館。

吉田東伍 一九一〇 『維新史八講』 富山房。



## 続・保育の中の小さなこと大切なこと ④ 守 永 英 子

昨年は、驚くほど、子どもたちの間にトラブルの多かったこのクラスも、年長組の二学期が滑り出して、ひと月ほど経つと、平和な日が続いていることに気がついた。

ときどき、けんかがあるにしても、私がしていることを放り出して、すぐに飛んで行かなくてはならないような差し迫った状況が、あまり起こらなくなったようである。

そう思っで見ると、「なるほど」と思えることがらに、いくつか出会った。

このクラスの女兒は、気の強い子どもが多い。H子も、M子も、T子も、その中にあげることが出来る。そのH子とM子が、その日は、朝から、いっしょに絵を書いていて、仲が良かった。しばらく保育室で絵を書いてから、二人は、ホールに行き、二人だけの遊びを楽しんでいたようだった。そこへ、T子が現われて、「花一もんめをしたいから、一人だけはいって」と誘った。それに応じて、M子が「はいってあげ

る」と答えたところから、トラブルが起こった。

H子は、「M子が、花一もんめにはいったら、自分は、ひとりぼっちになってしまう」と怒り、M子は、「私は、花一もんめにはいりたい」と主張する。

T子のグループが、偶数なので、三人ずつに分かれればよいことに気づかせると、T子は、思い違いに気づき、「もういいわ。ちょうどいいから」と、花一もんめをはじめた。

それでも、H子とM子の言い争いは続いていた。その激しさに、はらはらしながらも、私は、言葉をささむ余地もないまま、見守っていた。

保育室の方の子どもに呼ばれて、用事をすませ気になっていたホールに戻ってきたときに、私の目にはいったのは、花一もんめのグループに加わっているH子とM子の、楽しそうな姿であった。

保育の忙しさに追われて、事の成り行きを見とどけること



が、出来なかつたのが、残念であつた。あとでH子に尋ねると、にこにこして、「だって、はいりたくなつたんだもん」と、あっさりと答えてくれた。

以前であれば、二人とも、泣いて怒り、相手に身体的な攻撃を加えて、とつくにけんか別れに終つていたと思われれる状況である。お互いに、自分を主張しながら、その行き違つた状態によく耐えて、解決まで持ちこたえたものである。

女兒ほどではないが、男児の間にも、やはり、トラブルは起こる。秋びよりの園庭で、遊んでいたK郎が、私の姿を見つけて、とんできた。「T君が泣いてるよ。H君のくつを取つたの」こう言うと、彼は、すぐ、すべり台の方へ戻つて行った。「取られたHでなく、取つたTの方が泣いている」という事情が、よくのみ込めずに、近づいてみると、Hが、しらくけた表情で、そばのつり輪で遊んでいた。私は、解決のいとぐちを、Hの方に求めて、「どうしたの？」と尋ねると、彼は、事情を話してくれた。三人ですべり台で、遊んでいたこと、Tがいれてと言つたこと、満員なので、隣のすべり台を使つたらと言つたら、いやと言つて、Hのくつを投げ、泣いてしまつたこと。

「ひとりじゃ、つまらないでしょうね」という私に、「だから、二人ずつになればいいと思つて、誰と一緒がいい？」と聞いても、泣いてるんだよ」と言う。察するところ、幼いTの気持は、その前の段階で、あとの提案を受け入れられないほどに、こわれてしまつたようである。

「もう一度、聞いてあげれば？」という私の言葉に、Hは、「T君に決めさせてあげなきゃ」と言つて「誰といっしょがいい？」とTに尋ね、結局HとTが、隣のすべり台に移つて、楽しんで遊び始めた。

小さなトラブルの中に見られた、子どもたちの変化の持つ意味は大きい。子どもたちはトラブルを起こしながらも、自分たちで、解決の方向へと、進めて行ける力を、たくわえてきたようである。自分本位なおとながふえてきた、と感じられる昨今、自分のくつを放り出した、相手の子どもの気持を聞き、それを受け入れて、問題を解決して行こうとする態度は、子どもながら、立派ではないだろうか。

平和な日々をささえている、ともすれば、見落しがちな、この小さな芽ばえを、これからも、大切に、育てて行きたいものと思ふ。

(お茶の水女子大学附属幼稚園)

## 「いき」——憶い出の中から

### 水沼 昭子

「清光せいこうさんのギャングちゃん、今日のごきげんだね」「ギャングちゃん、幼稚園かい」

この「清光せいこうさんのギャングちゃん」とは、私の幼ない日のニック・ネーム。「清光せいこうは祖母の代で二代続いた割烹料亭の名である。もう一代前は小茂亭こもぎやと云う西洋料理屋、場所は、港区芝神明。歌舞伎「神明恵しんめい和合取組わがくみ」（め組の喧嘩）の舞台の真っ只中。我が家の前には先代の羽左エ門丈が住

んで、その膝であやされたこともある当時のギャングこと私。

幼稚園は第二次大戦のさ中で卒業式もなく離散したが、増上寺の明徳幼稚園、たしか一年保育だったと思う。いわば、花街のど真ん中で私は生れ育った。最近でこそ、もう聞くことはないが祖母から「戦争がなかったら、お前に「清光」を継がせて——」といわれたものである。その私が幼稚園の

現場にて、もう二十年の月日を過した。

「三つ子の魂」と云うけれど私の思考の原点は、あの芝神明の、下町の「いき」の中にあるように思えてしかたがない。そそっかしいけれどお人好しで、好奇心が強く、意地っぱりでとてつもなくあったかい下町の、あの幼ない日に出遭った人々の肌のぬくもりや、かけてくれた言葉が、私の今に大きく働いているといつも感ずる。

「いき」と云う言葉から思い出すのは主人の蔵書の中にあつた『「いき」の構造』という本。九鬼周造という貴族の血を引き、若くして世を去った哲学者の書いた本である。哲学のジャンルの書物だけれど、私にとっては興味ある書物である。「いき」を広辞苑で当てみると漢字では「粹」、「意気」から転じた語で、気持や身なりのさっぱりとあかぬけて、しかも色気をもっているとある。九鬼周造は『「いき」の構造』の中で「いき」を、「垢抜して（諷）、張の

ある（意気地）、色っぽさ（媚態）」であると定義して、この日本独特の価値を、江戸時代の、文化、文政年間の遊里の、女の姿の中に認めたとある。戦前のアカデミーの中で遊里の哲学などを論ずることは大変なことだったろうが、あえて、そこに挑戦したところに、九鬼哲学の「意気」があると解説の多田道太郎氏は述べている。

「遊里」「花街」を私の心のふるさと……という、何か「たけくらべ」の美登利を気取っているようだが、私の中には、この下町の、芝神明様（芝大神宮）の氏子育ちの幼ない日のふれあい、様々な人生を背負っていたであろう、あの街の大人達が示した、人間らしさを、私だけでなく、あの街にかかわる「子供達」にむけられていた、人間らしいふれあいを、今、とてもなつかしく思い出す。さらに、幼児教育のほんのささやかな部分に関わる者として、あの人間らしさを、正面からぶつけてかかわって

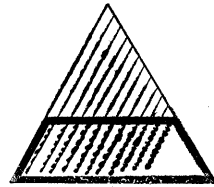
くれた大人達を大切なものとして思うのである。そこには「〇〇さんちの子」でありながら、「あたしの街の子供」といった、子どもを育て見守る責任を背負いあう、良い意味の「おせっかい」があふれていた。節度のある甘さときびしい目が、このうちの子にも同じ様にむけられていた。そうした中で「ギャング」がおり、泣き虫がおり、少々手におえないいたずら坊主、甘えん坊が安心して、その子のその子らしさをフルに発揮して遊びまわっていたのである。そうした、いわば下町の「コミュニティ」をなつかしく、大切なものとして思い出す。

私の母など生粋の江戸っ子の面目躍如たる毎日で、道を歩いていてみかねる事があると、どこの子だろうと、叱りつけては「おせっかい」「ぶりを発揮している。」「私の子に余計なお世話です」などの言葉をいただきながら「今の御時勢考えちゃうネ」な

どと案外、けろりといきに自分流を続けている。彼女にとっては、近所の子はそこに住む、すべての大人の共同責任で育てるものだと肌で感じているようだ。落語の八つあん熊さんの、そっかしさと、正義派で世話好き、出しゃばりのオッチョコチョイ、そして人一倍の涙もろさ……それだけが人間の良さだとは思わないけれど、最近は何か理性的、合理的一本槍で、感情を抑えた人間社会の中で、はみだしたり、ぶつかったり、ころんだり、その人がその人らしくありのままの姿で生きることが少しづつ窮屈になっていることを感じる。下町の、人情味溢れる大人たちのいたあの頃、いきな土地柄が私にとっての大事なベル・エポックだどつくづく思う。

「あなたって幼稚園の先生らしくない先生ネ」と何気なくいわれると、生粋の下町っ子、花街育ちの私は何やら、ドキっとしながらも内心、ホッとするのである。

# 呼吸のいろいろ



## 森下はるみ

●呼吸の役割……ガス交換、水分調節、

体熱放散、においのかきわけ、いきみ・せ

き・くしゃみ・しゃっくりなどによる体内

モロモロの排出、発声、※※※楽器演奏、

ちりふぎ、ふうせん製造、火おこし、熱い

食物のさまざま器、くすぐったいタッチン

グ、かじかんだ手の加温、文字の乾燥、メ

ガネ・レンズの加湿クリーナー、子どもの

すり傷万能薬、発煙器、生死のみわけ、

etc., etc……

P・S 指示どおりに身体部位をさわら

せると、目・口・鼻などは一歳でも半数

が、三歳ではほぼ全員ができる。それらの

働きについて“何するところ”ときけば、

正解率は口―目・耳―鼻の順にへり、と

くに鼻は四歳でも三〇％にすぎない。鼻

をかむ”“鼻くそをとる”“鼻水がでる”

など機能と状態の混合がみられる。

●呼吸器……(1)鼻↓(2)鼻腔↓(3)咽頭・喉

頭↓(4)気管↑(5)気管支↑(6)気管支枝↑(7)細

気管支↓(8)終末細気管支↑(9)呼吸細気管支

↓(10)肺胞↑(11)肺胞↓(12)毛細血管↑……

P・S (1)から(11)までは外呼吸、(12)以後

は内呼吸という。鼻つまりの際は(1)から

(3)へバイパスあり。とくに幼少期は(1)―

(3)間がせまい。“トウキョート、ニホン

バシ”などはやした鼻たれ小僧は近頃

みかけなくなったが、これには栄養が良

くなり感染症への抵抗力がましたことが

影響している。

●呼吸の型……胸廓の体積を肋骨の上下

動によって増減させる胸式型と、横隔膜の

上下動(弛緩と収縮)による腹式型がある。

幼少期は肋骨がまだ水平位なので胸式呼吸

はできない。満腹や妊娠時は横隔膜の下降

が抑制されるので胸式型になる。

P・S 衆人は喉で、哲人は背骨で、真

人は踵で呼吸する(野口)。表現の深まる

段階に応じ横隔膜を12〜13段までもひきさげうるようになる(武智)。呼吸を入れるのに三つあります。咽喉仏のところと胸と腹です(五世延寿)。日本の舞踊のこまえ姿勢は、横隔膜をグッとひき下げ、腹を突出させたたぬき型、一方、西洋の場合は腹をひっこませ横隔膜の下降を抑制したきつね型。

●呼吸の数……新生児は分四〇回、幼児二五回、成人で一二から一六と年と体の大きさに応じ少なくなる。ただし老年期にはまた増加する。

P・S スプリンターは一〇〇mをほとんど呼吸せずに疾走する。水中ではヒトもケモノも呼吸数がへる。驚かく、強い緊張、精神集中、全力を出す瞬間は呼吸がとまる。怒り、興奮、高温などではふえ、消沈、安静、低温などではへる。心を調べて三昧に進む第一歩としては、通例まず数息法が用いられる(佐藤)。

●呼吸と吸気……呼吸相と吸気相の比は呼吸相の方が一・一・三とながい。鼻からの吸気は外気温に近く、口からのものは体温にちかい。したがって口からはく方が腹がへる。

P・S ジョッキングでははこびをすう・すう・はくのリズムで。歩む足は一呼一足、一吸一足で、走る足は一呼三足、一吸三足で(小笠原)。イチチで吸い、二、三、四、五、六ではく(岡田式調息法)。

●呼吸と水泳……新生児は水中につけた瞬間、反射的に呼吸をつめる。

六か月には、背浮きで息つきして浮いていられる。軽く水をブクブク(パブリング)してみせると、やがて自分で空中で息を吸い、水中で水が吹けるようになる。二歳前後には伏し浮きで前向きの息つきをしながら進めるようになる。

三歳前後には、クロールに近い姿勢はとれるが、まだ横で呼吸することがむずかし

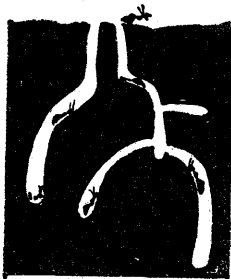
い。したがって、息つきは前向きか背浮きになるかを選ばねばならない。

四歳前後には、前むきの息つきは楽にこなし、横向きでできる子もでてくる。この時、身体をローリング(横にまわす)させてひっくりかえる動作を教えるとよい。

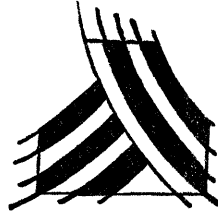
五〜六歳には、クロールの息つきも、息つき側にローリングすることもできる。

(林夕美子、裕三、〇歳からの水泳指導、講談社)

(お茶の水女子大学)



# 活人と殺人



## 原口愚常

人をいかす者はいかされ、人を殺す者は殺される。こう書いたあとで、どうも聖書に似たような言い方があったような気がしてきた。しかし、生来のものぐさに加えて、聖書にあってもなくても、ここでは関係がないと不遜を決めこむ。最近、残念なことであるが、この自明の理とも思えることを知らない人が増えたような気がする。

かつてある会で、「活人と殺人」ということは卒業生に送った。そして、「他人をいかす」ことはとりもおさず自分をいかすことであり、そのためにはどのようしたらよいかということ、舌足らずに、しかし、熱を込めて説いた。この機会に、もう少し別な観点から人をいかすにはどのようなにしたらよいかを考えてみたい。この問題は、人を殺さないためにはどう

したらよいか、と言い替えてもほぼ同じである。殺さないことはいかすことに通じるからである。人をいかすとか殺すという場合、文字通りの意味で使われるほかに、比喩的な意味で用いられることもある。「人殺し」というと文字通りの意味だけであるが「人を殺す」というと両方の意味になる。「人をいかす」というのを比喩的に使う場合は「活かす」と書く。その心は、「人のよいところや優れたところを引き出した、伸ばしたりする」ことである。「人を殺す」というのは、この逆である。

この点を踏まえた上で、当初の問題に戻ろう。人をいかす上で特に重要なのは「愛情と真心と智恵」の三つとことばである。もつと言えば、「真の愛情と智恵と真心に裏打ちされたことば」である、ということになろう。これに眼力・胆力・気力・行動力等々の力が備われば申し分なし、ということであるが、ここでは、この点につい

ては立ち入らない。

ことばというものは、実に不思議なもので、大きな力をもっている。わずかに五十程の字でもって、人を殺すこと、いかすこととを筆頭に、あることもないことも、目に見えることも見えないことも、さらには目にあまることすら表すことができる。字の数ではなく、音の数ということになると、日本語では母音が五で子音が十五強であるから、計二十強の音があれば、ほぼ、無限に近いことがらを表現できる、と言つてよい。これは実に驚くべきことである。

ただし、ことばだけでは十分でないことも確かである。真の智慧と愛情と真心が欠けると、ことばは生気を失い、魅力を失うだけでなく、遂には死んでしまうからである。われわれの身のまわりには、このような実例にことかくことはない。

ことばをみがき・いかすことは、自分をみがき・いかすことである。と同時に、人

をもいかすことにつながる。「しつけ」というのは、「ことばのしつけ」であると言われるのは、このことと無関係ではありえない。ただ、注意すべきことは、ことばをみがくだけで、実行力とか他のものを養わない場合には、「口舌の徒」になり下がるということである。これでは、ことばはみがいても、それもいかすことにはならない。

いきたことばということであれば、その例は数多い。が、ここでは一つだけ、山岡莊八（73年）『徳川家康2』から引いてみよう。場面は、捕われの身となった竹千代（のちの家康）を救おうとして、母親の於大が若き信長の袖にすがるために、信長を訪ねたところである。

「お許は熊屋敷でこの信長をだましたな」

於大が入ってゆくと、信長はいきさつよりも先に言つて、脇息を股の間に抱えこんで頼杖をついた。それから近侍に、

「みなは下れ」と乱暴に命じた。

「お許は熊の若宮が身内でのうて、水野下野が妹御、以前の松平広忠が室ではないか」

「恐れ入りました」

と、於大は言つた。よく光る眼であったが、切れ長なその眼の奥に滴る情愛の色の濃さが頼りであった。

「その節は、波太郎さまご座興と存じましたれば、そのままにいたしました」

「座興か……」と信長は、十四の若者とは思えぬ深さで微笑した。

「人生すべてこれ座興かも知れぬ。ところでお許はこんどわしに何を土産に持つて参つた？」

「はい。母のこころ……それ一つでござりまする」

「よし、きれい！」

いきなりパツと片手をひらいて突きつけられて……於大は、膝のり出した。必死だった。良人にかくして、この人にすがると、よりほか、竹千代を救う道はあり、そうに思えない。

「差上げます。お受取りを……」

じつとすが、眼をしてみ、つめてゆく。於大の、双眼は見る間に涙でいっぱいになつていった。「差上げます。母のこころ……母のこころ」

はげしい鳴咽がこみあげた。肩が波打ち、声

が、もつれ、やがて涙は音をたてて畳におちた。  
十四歳の信長は、とつぜん大きく笑いだした。  
「もううた。もううた。お許の土産をたしかに  
もううた。もうよい。」

於大はしずかに頭を垂れて、またしばらく動  
かなかつた。  
(傍点は原口)

この部分(特に傍点を付したところ)を  
読むたびに、不思議な感動が胸に迫って  
くる。母親の真の愛情と真心とことばの相乗  
効果に心を打たれるのである。これは、こ  
とばが生きている証拠である。

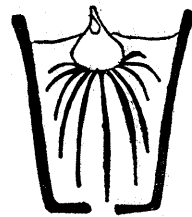
いつの日か、このような人の心を打つ、  
生きたことばが使えるようになりたい。こ  
れが私の数年来の願ひであるが、まだかな  
えられそうにもない。

(はらぐち・くじょう「本名は庄輔」筑波  
大学)

## 冬の息

いきものは皆、息をしています。それ  
を強く感じさせられるのは冬のおかげで  
す。生まれて四、五回目の冬を迎える子供  
達は、一年を大人よりずっと長く過ごし  
ているらしく、いつも新しい気持ちで移り来  
る季節を迎えているようです。

自分のはいた息が白いゆげとなつてロヤ



豊田一秀

鼻から出てくるようになると、子供はそれ  
が何ともおかしく、不思議でそして嬉しく  
て仕方がないのです。

白い息、それはいきものが生きて生きて  
いることを象徴的に表わしているように私  
には思えます。蒸気機関車に根強い人気がある  
のは、きっとその力強い音とともに上



る煙や蒸気がいきもののような躍動感を我々に与えるからでしょうし、昔よく社会科の教科書で、日本の工業のめざましい発展を書いたページに来ると必ず林立する煙突からモクモクと煙が出ている写真が載っていたのも、やはりあのふき出る煙や蒸気が、活き活きとした雰囲気の人々に与えるからにはかなりませぬ。

冬の園庭もあちこちからポッポッと白いゆげが出ています。すもう、かけっこ、おしくらまんじゅう……。冬の外遊びは心なしか激しい動きを伴ったものが多いようです。

皆精一杯力を出して、ハーハーと息を切らせ、仲間と自分のゆげが混ざり合うのが何とも言えないといった感じです。そんなふきでるような白い息の他にも、朝の庭で子供はタバコをはさんだつもりの指を口元を持って行つては朝の空気を大きく吸いこんでおいて、空に向かってフーッと大きな

溜め息をついては、朝の一服を楽しんでいます。

まどみちお作詞、宇賀神光利作曲の歌に『ゆげのあさ』という曲があります。

一、おはよう、おはようゆげがでる

はなから、くちからポポポ、ポポポ

きしゃぼっぼみたいでゆかいだな

二、おうまもこいぬもゆげがでる

はなから、くちからポポポ、ポポポ

きしゃぼっぼみたいでゆかいだな

三、おはよう、おはようだれもみな

はなから、くちからポポポ、ポポポ

きしゃぼっぼしゅぼぼでゆかいだな

この歌から私は冬の朝を想像します。犬を散歩させているおじさんの口からも犬の鼻からもゆげがポッポッと出ている。そしておはようと言つた自分の口からもやはりゆげがでている。そんな冬の登園風景を私は思い浮かべてしまうのです。

いつだったか先日、一晚中冷たい雨が降

り続いていたのに翌朝になってそれが嘘のように晴れ上がった朝がありました。早目に来た子供がケヤキの細かい枝と高い空に誘われるように庭に出ていくと、しばらくして息はずませて私を呼びにきます。私はこれから来る子供達のことを少々気になりながらもその勢いに押されて手を引かれるままについていくと、そこは遊

戯室の裏の焼却炉の横でした。今は使われていないコンクリートのごみ箱、積んである薪、立てかけてあるスコップの柄、それらが皆やわらかい朝日に照らされて白いゆげを立てています。子供は「ね、」と云つてから、「さわつても少しも熱くないんだよ。」と教えてくれます。私は一日が彼にとってきつと良い日になるだろうと思いつつ、自分がセーターの下にウィンドブレイカーをそつと着こんでいたのを一瞬忘れてしまいました。

(お茶の水女子大学附属幼稚園)

わたくしの  
シルクロード  
⑨

横張和子

クチャ出土の舍利容器

今回は、織物の話からちよつと離れて、現在東京国立博物館東洋館所蔵の赤地に華やかに彩画された西域出土の舍利容器について書かせていただきます。 (図版①)

直径三十八糎、高さ十七・七糎の円筒形の身に、高さ十三糎の円錐形の蓋をのせた帽子箱のような木製容器は、轆轤を使って一木を削り出して作られています。入念な仕上げで、円錐状の蓋の

盛り上りはことに美しいなだらかなカーブを示しています。器の表は木地に織目の粗い麻布を貼りつけ、その上に厚めに顔料を用いて彩画し、その上にさらに透明の油性塗料を塗って、いわゆる密陀絵の手法をとっています。ここでご紹介したいのが、身と蓋に描かれている絵画です。今は油性塗料のためにかなりくろくろずんでいます。薄く被膜を通して赤地に緑、黄、白、紺青、茶などの多彩な色や墨書の鮮明な描線が際立ち、彩画の主題への興味と共に人目をひきつけます。

これは明治三十六年、仏教東伝の聖地巡礼を目的に西域に赴い

▶ 図版①  
クチャ 将来の舍利容器



▼ 図版②



た京都西本願寺の大谷光瑞師（二八七六一一九四八）の一行が天山南路（西域北道）のクチャ（庫車、中国の史書にみえる亀茲國の故地）のオアシスの北方のスパシの仏教寺院の廢址で発見、日本に持ち帰ったものです。

このような形をし、器表に彩画のある舍利容器はフランスのP・ペリオやドイツのA・フォン・ル・ユックによっても同じ処で発掘されていますし、有名なクチャのキジルやクムトラの石窟寺院の壁画に描かれた「分舍利図」（釈迦入滅直後、その遺骨は八つの王国に分骨された）においても釈迦弟子ドロナを左右から囲む王達がささげる舍利容器がこの形をとっていますから、この地方に独特な形式であったことが知られます。（図版②）

大谷探検隊が将来したこの舍利容器は瓮掘時、その器表の装飾は丹や紺青の顔料で、同心円的に環状の帯模様を塗り替えられ、金箔がおかれていました。この彩色の下に絵のあることが分つたのは、これをのちに個人的に所有された方によってでした。そこで二度目の絵の具を丁寧な落すことによって、はじめの細やかな彩画を見出すこととなったのです。

ではその図様についてみていきましょう。まず蓋の方からです。

山の形をした蓋の頂上には直径二種ほどの鉄の環がつけられ、それを中心にして、下方に向つて二条の円帯がめぐらされ、下辺にも同様の帯がめぐらされています。帯の文様は一番上のが波頭文、次のが楕円形の丸文に四つの小点の配されたものの連続文、下辺のが楕円文のまわりに小点をめぐらしたものの連続文で、それらは地中海地域のまたはメソポタミアの古い文様で、ササン朝ペルシアの宮廷で洗練され、その文化が各地に拡がるに従つて、このような器物の装飾にも使われるようになったのでしょう。蓋と身の境目に描かれた組紐のような連続文様もササン朝の金工品に見出されるものです。

山形の蓋のなだらかな斜面で、今述べた円帯の間の地には四か所にメダイオンが配され、中に、楽器を持つ裸形の童子が描かれ

ています。肉色は黄色（もとは白であったと思われる）と緑に塗り分けられ、黄色の童子たちはその背に緑色の大きな鳥の翼をつけ、緑色に塗られた童子は四対の赤茶の羽の羽をつけています。童子たちの髪形は頭の前と後、それに両側の髪に髪を残して剃り落し、後髪を束ねていて、それは唐児の髪形です。首から長短二様の玉飾りをつけ、長い方はお腹の方にまで垂れています。童子たちがもっている楽器は琵琶、箏、篳篥（篳篥）、阮威かとも考えられるマンドリン様の弦楽器それに笛です。笛も琵琶も箏篳篥も正倉院の御物の中に見出すことが出来ます。

童子たちをめぐる円環には大ぶりの珠文が連なり、四方の位置に重角文がおかれています。このような意匠は、さきにお話ししているシノ・イラニカ様式の錦に最も特徴的なものでした。四つのメダイオンの間には凶案化された山の上に二羽の鳥がおかれています。相対する位置で、山と鳥の描き方に変え、単調を避けようとし、意匠家（あるいは画家）の細心な工夫がうかがわれます。つまり相対する二組の一方では、山は三角形で、その上に立つ鳥は右が山鳥、左がオウムで、それらは宝石で飾られたリボンをくわえ、互いに頭を後方に振り返らせた図であり、もう一方の組では山は半円形にあらわされ、同様の鳥が二羽、これは木の小枝をついばんで相向っています。このような鳥文は昨鳥文といっ

て、ことに錦の文様に盛んに用いられていることは前回にご紹介  
しています。このような錦の成立についてはやや論ずべきことが  
あり、ササン朝のベルシアで製作されたものか、あるいはその滅  
亡後のことであったのか追究すべき問題点はあるものの、その愛  
すべき華やかな文様は全く抵抗もなしに各地で受け入れられたの

▼図版③



です。アフガニスタンのバミヤンの、また前回ご紹介したキジ  
ル最大洞の壁画装飾に用いられています。正倉院御物、例えば  
螺鈿紫檀の阮咸の背面の装飾は二羽のオウムが螺鈿や琥珀の綬を  
加えて飛び交う図です。また赤地のオンドリ唐草文錦では向い合  
う鳥が樹木の枝に飾りひもを結んだものを啖えています。

四人の童子は羽をつけて楽器を奏でる天使たちですが、八枚の  
羽をつけているのは珍らしく、これは飛翔をあらわすのに鳥翼を  
用いている西方的な発想が変質して、東方の天衣に移っていく過  
渡的な試みとしての描きあらわしたものと考えられています。翼  
から衣に移っていく試みとして童子形の楽天にマントを着せ、そ  
の裾が風に翻っているようにあらわしているものもあります。(図  
版③)

この舍利容器の蓋に描かれた小さな画面から、西域の文化の特  
質、すなわち西方的なものと東方的なものとの巧妙な均衡やその  
混淆様式をみてとることができそうです。さらにこれを西域絵  
画としてみると、見逃し難いのがその強い墨の描線です。それ  
は鮮やかな色で平塗りされたものの形の輪郭をしっかりと描き起  
し、細部をも克明に記しています。これを鉄線描といって西域画  
の顕著な特質とされています。童子の肉身は白あるいは緑に平ら  
に塗られ、細くて弾力のある墨線で輪郭が描かれています。そし

▼図版④



てさらにそれには赤い線が描き加えられています。朱線はその人体の血の色であり、その明暗によってまろやかな肉付けを表現しようとするやり方を凝集して線に置き換えてしまったのです。

このような描法は今では焼失して原初の画面はみることでできない奈良法隆寺の金堂壁画の仏菩薩の肉身を描くものにもみられますし、また東方キリスト教美術における人体表現にも見出すことができます。(図版④) 古典期のギリシア人が試みた陰影法や遠近法はここでは重要なこととはされず、東方的な線描主義が強まってくるのですが、それは中国の抑揚のある描線とは質を異にし、西域の鉄線描は固く無機質な強さがあり、厳しいところがありま

▼図版⑤



す。それは砂漠に生きる人の性情がもたらすものといつてよいのでしょう。しかしこうした線の絵画からはそれゆえある種の強い感銘がひき起されます。童子の表情も人間的な共感（可愛らしさ）よりは鉄線描の強くて厳しい表出の方が優っているのがお分りでしょう。東西の二大宗教絵画にこの線描が採用されたのもそのためです。

次に容器の胴まわりの絵について述べましょう。そのぐるりに仮面をつけ、手足を上げて踊る舞人たちと大鼓をたたき、豎琴を弾じ、ホルンを吹く楽人たち、子どもを含めて総勢二十一人の行列のさまを描き出しています。その姿があまりに生き生きしているので、その何人かを、大学ノートに描き起してみたことがあります。（図版⑤）彩画の人物や服飾やその仕草に描写にはありありとした写真味があつて、これはおそらくこの地方で盛んであつた伎楽の実景を写したものではないかと思ひます。

踊る人と楽器を演奏する人とは服装を異にしています。舞人たちは丸首、長袖の下着を着け、その上に半袖で、腰よりやや下にまでくるやや服飾を凝らした胴着をつけ、下にズボン履くといつた装束です。胴着には袖口と裾まわりに薄絹で作られたかと思われるフリルがつけられています。腰まわりのものには深く丸い切り込みがあります。またそれには白と黄の列をなした点々模



様が目につきますが、これは雲母の円板からなるスパンコールではないかと思えます。またそれは腰のところを金属製の小円盤を連ねたベルトで締めています。ズボンも絹織物から仕立てたものと、毛織物から作られたものとあるようです。多くの舞人がこれ



Fig. 117. Северная стена. Третья группа (прорисовка)

▲ ▼ 図版⑥

に四角形の縁どりのある前垂れをつけています。また縁どりのある、先端が燕尾状となった長い帯腰で蝶結びして、腰の左右に翻えさせています。この帯も絹織物でしょう。猿の面をかぶった人物の一人は毛皮をまとっています。もう一人は上下につながり、

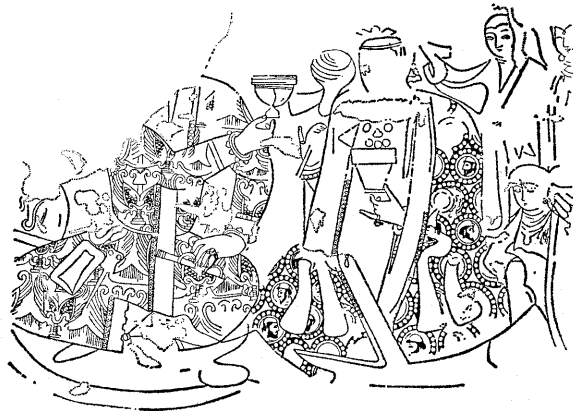


Fig. 116. Северная стена. Вторая группа (прорисовка)



前明きのあるスリムな、今日のスポーツ着によるある形ですが、全面に白黄の点々模様があります。かれらは互いに手を結び、またリボンを持ち合って、舞踏に陶醉しているかのようです。

楽人たちは素足の子どもが担ぐ大太鼓をたたく人からその後には箏篋・タンバリン・小太鼓・角笛などを奏でる人々が続きます。

楽人の服装はこの地方の石窟の壁画にみられる亀茲人のものと全く同じで、別布で縁どりされた膝下までの長衣を着ていますが、右側の衿を大きく三角形に折っているのがきわめて特徴的です。

長衣の裾から僅かに足首でくくった下袴がみえます。沓は紐でくくったものです。長衣は舞人と同じ金属製の円盤つなぎのベルトで締め、それから短剣を黄色のリボンで吊っています。腰には先の方で結んだたっぷりとした薄物の布をしごきのように垂しています。箏篋を弾く楽人の長衣の縁どり布はおそらく錦でしょう。

このような特色ある服装はクチャ地方にばかり行われたのではなく、西トルキスタンでも、例えば、今日のソ連邦ウズベク共和国がアフガニスタンの国境に接するところに近いバラリク・テベの廃墟の城館の壁画の酒杯を上げる人物群も同様の型の服を着ています。(図版⑥)顔立ちも似ていて、シルクロードのオアシスの住民がアリア系の人種であったことが分ります。壁画の人物が豪華な織物、錦と考えられるものをふんだんに用いていること

には特に関心がそられます。もはやそれは中国産とはいえない難く、ペルシア錦のようであり、経錦ではなく緯錦のようです。中国が専らであった絹織物業も、五世紀から七世紀にかけては、この地方に一大絹業が起って、今度は西から東に向けて、絹は運ばれていきます。シノ・イラニカ錦はこの東西の絹織物のぶつかり合いの中に生まれてきます。クチャ出土の舍利容器的彩画もまたこうした東西の交流の中に、両者の要素をたっぷり盛り込み、西域独特の様式を作り出しています。それにしても舍利容器というのに何と陽気な管弦舞踊の図でしょう。葬礼の器物にはおよそそぐわなのおかしさがあるものの、かえてそこにシルクロードの住民の生活の遊びが、この小さな画面から躍如として伝えられてくるような気がします。むかしの、わたくしの大学ノートには落書のような語句が書き添えてありました。

管弦伎楽、特善諸国、

服飾錦毼、断髪巾帽、

毼とは毛織物のことです。クチャ楽ともいわれたその管弦伎楽は唐の長安の都の巷間をにぎわし、また奈良の都にも一きわの精彩をそえたことでした。

(山協女子短期大学)

\* 海外文献紹介 \*

Movement: "Enchantment"  
in the Life of a Child

Peggy Emerson & Cindy Leigh

*Childhood Education*

Nov./Dec. 1979

今までの運動教育のプログラムは、「身体発達」との関連ばかり目を向けて立てられ、その心理学的・情緒的側面との関連は顧慮されずにきました。しかし、子供たちが身体運動やダンスによって自分の感情を表現し、自分の精神生活の必要性を満たしていることには多くの人が気づいています。哲学者、Susanne Langerは芸術の哲学論文の中で、人間は様々な芸術形体で自分の感情を象徴的に作り直す「象徴化する動物」であると表現しています

が、ダンスもまた感情を象徴的に表わす一形体であるといえます。

ミシシッピ大学共同研究者 Emerson と Leigh は、その象徴性に目を向け、身体運動とダンスは子供たちを日常から非日常の世界へとつれていってくれる「魔法の国への空とぶじゅうたん」であるといい、「空想と想像力」を究めていくような身体運動とダンスのプログラムを教師が立てることを提案しています。ここに二人が子供たちの成長に合わせて立てた四段階のプログラムを紹介してみましょう。

一、表現としての身体運動

先生は、子供たちが、身体的・知的能力への探検と挑戦を安全に行なえるような様々なタイプの空間を用意することが必要である。

たとえば、乗り越えていけるもの、下をはいくぐつていけるもの、柔かい空間、堅い空間、狭い空間、広い空間などである。

二、展開としての身体運動

子供がある程度自分の身体をコントロールできるようになると、先生は子供が「正確に自己」の概念を得られるように助けて

やらなければならぬ。たときば、「ほら、Carol がじゃうたんのう上をはっていったわよ」「Jan は高い棚に手が届いているわ」「Maya は床の上でつぶれてしまったわ」「今は誰も動いていません。みんなとても静かです」というように。

### 三、想像としての身体運動

これは、子供たちが簡単な問題解決ができるようになり、「自分が誰であるか」ということだけでなく、何になることができるか想像できるようになったときに始められる。先生は無限の可能性を想像によって作り出す。

「できるだけ高くまで手を伸ばさない」「椅子の下をいろんなやり方でくぐってみましょう」「ぬいぐるみの人形はどんなふうに動くかしら?」「糖みつの中を歩いているふりをしましょう。」

### 四、創造としての身体運動

子供は成長するにつれ、自分はひとりであるわけではなく、必ずしも自分がしたいようにいつでも空間が使えるわけではないという現実がわかってくる。ここでの先生の役割は、新しく「想像的」状況を提案したり、新しい可能性をとりいれたりすることである。たとえば、音楽や視覚的効果を使うことが考えられる。

また、Bruno Bettelheim はその著『The Uses of Enchantment (邦訳「昔話の魔力」評論社)』の中で、「昔話は子供たちが直面している内的葛藤問題について、自分自身で解決を見い出せるような示唆を与えてくれる」と述べているが、ある子供たちには、耳から聞いた昔話の「概念」を踊ってみて始めて理解し、感じることもできるかもしれない。「ひとたび木になってみれば木のことはずっとよくわかるようになる」といわれているように。

以上のようにプログラムを見てくださいと、著者が子供の精神発達と身体発達の相互的かね合いからプログラムを立て、小学校では音楽、国語、体育と分けられる領域も実は相補的に働いてこそ教育効果を高めることを暗にほめかしているように思えます。

著者は最後に、「教師として我々は、すべての子供たちに、この生き生きした表現形体を受けさせなければ、ある者たちは『沈黙』の生に運命づけられてしまうかもしれない」とダンス教育の必要性を強調しています。

(高野 藤子)

『子どもたちのいる宇宙』

本田和子著

三省堂選書77

一九八〇年

物への目配り"をこそ忘れてはならないと。

さて、子ども固有の生の様態を、著者は、「見える姿」から出発し「心の世界」へ向って説明してゆく。子どもとかかわり深い六つの動詞「ねる・とぶ・めぐる・ほる・たべる・うつす」から、子どもたちの身体の言葉を読み解くことを試みるのだ。

例えば、「とぶ」に収められている滑り台での事例の解釈は、次のようなものである。

帰宅の時間が近づいて帰り支度が始まっている。しかしYだけ外で遊んでいて部屋に入ろうとしない。とうとう保育者の迎えが来ると、Yは滑り台に向い、サーッと滑り降り、サッサと部屋に駆け込む。著者は言う。——Yは「いま」への執着が強くて「未来」への移行が困難であり、しかも入っていかねばならない部屋は、負の誘引性のゆえに遙か遠くに距たって見える"。それら相對峙する二者

昨年秋のこと、私どもは一冊の本を手にし、机上で心充たされる読書の時をもつことができた。叙述の確かさからくる意味の明瞭さ、それに加えて、考への発展の独自性は、そういう著書を残念ながら多く持たない児童学の分野において、また他分野からの子どもに関する著作を雑まじえてみても、第一等の糧かしさを放はなつていたと思われる。

「子ども、小宇宙の管理者としての」という、なよやかで慎ましやかなもののいいの序章で、しかし、著者は、判然と子ども

もを以下のように捉える。「成人への過程を急がされている旅人でもなければ、

未来への「可能態」であるだけでもない。それにもまして、一個の「現実態」として「いま」を生きる存在であり、そのゆえに、固有の生の様態の所有者である」と。「発達という直線的な系における差異」のみで子どもを把握するのではなく、「子ども」と「大人」とを二つの極と位置づけ、「大人」から「子ども」

へと手渡される諸影響"にも増まして、「子ども」から「大人」へと贈られる贈

「子ども」から「大人」へと贈られる贈

を速やかに接近させ融合させるための呪術的儀礼として、彼が選んだものが、滑り台の一滑りだったのである」と。

「滑り降りる」という、一瞬、無意味な付けたりとも見過ごされる現れから、心の中で綻び、自身でもどうしようもない、もぞもぞとした裂け目を――、凜とした身体的活動で鮮かに生きる子どもの「かかる生」を――、すばやく読みとるのだ。すばやく読みとり、しかし、それだけに留まらない。著者は、自己の心の奥深くにまで感性の鍾を謔かに下ろしていく。そして世の中に、これほどまで豊かな、しかし悲しみを湛えた文章はないのではなからうかと思える、本書の中でひときわ目を射る六行の文を綴るのだ。

すなわち、砂場の一隅に穴を掘り、宝物の泥団子を埋める子どもの行為について述べ、次にこのように続く。「これらことがらに対して、私ども大人は、しばしば「たわいもない気まぐれ」と看過し、その意味を読むことを怠る。それ

は、もしかしたら、己れの無力さから眼をそらす手段ではないか。幼い人たちの素朴な生き方の中にさえ、私どもの視野から逃れてその接近を拒む領域があることに気付くのは、この上なくさびしいことだろう。しかも、それが、子どもたちにとつて「存在の根」であり、「人格の核」であることを自覚するのは、大人にとつて限りない無力感の自覚にはかならないのだから。」

子どもたちの心のゆらめきを、ひたすら読み解いてきた著者のこの言葉を、どう受けとめればよいのだろうか。「たわいもない気まぐれ」とあまりに見過ごしてきてしまった私どもは、この言葉から「優しい慰励」を読んではならないだろう。かなしみが湧き出でずにはいられない、人と人との真のふれあい、そしてこのかなしみを直視することに他ならない保育の営み。著者の禁じえないかなしみは、或る思索家が、DÉSOLATIONとCONSOLATIONで表わした悲しみと同

質のように私には思われてならない。

著者は、現実の可視的な発達事象を、対象的に認識し、前後関係などを意味づけ、抽象的に理解していくのではない。

現実の現れを、一挙に照明し、対象全体を直覚的に理解していくのだ。それは、対象（つまり子ども）の内部へ入り込み、内部の動きのままに直観して把握することであり、「ある意味で想像的に対象を経験してゆく仕方」（辻邦生、バルザックの開くもの）と言えるものかもしれない。かかる接近によつてこそ、他の児童学の書物が掴みえなかつた、子どもたちの「存在の根」が感得されたのだと思われる。

本書にひき込まれることにより、「子どもたちの小宇宙」のどこかで、本田和子その人が、カタツと宇宙の仕掛をはずしたような、小さな音をたてたのを、私は今、ここに感ぜずにはいられない。

（皆川美恵子）

# 『復刻・幼児の教育』〈大正・昭和篇〉

## 〔趣旨〕

『幼児の教育誌』は、明治三十四年『婦人と子ども』と題されて創刊されて以来、今日に至る迄八十年の長きに亘り、わが国幼児保育の発展と歩みを共にして来た。この間、幾多の先駆的保育理論、実践研究発表等が誌上を飾り、わが国の幼児教育の発展に測り知れない寄与を成して来た。現在まで継続する幼児教育専門誌として、わが国最長であるのみならず、雑誌出版史上、極めて稀有な例を示している。

本書は、昨年刊行の『復刻・幼児の教育』（第一期・明治三十四年～大正九年）に続き、大正十年～昭和十九年の二十四年分、二十四巻を、一挙に復刻刊行するものである。大正・昭和期はわが国幼児保育が日進月歩の高進を示し、時代背景もめまぐるしい変貌を遂げた時期にあたる。

わが国の幼児教育の進歩の様相を概観する好個の原資料として、また先達の抱負や熱意の結晶する稀有な文献として、

現代保育を考える人々に資することを念願する。

## 〔体裁・内容〕

全二三巻、別冊著者別索引

〈第二一巻～第四四巻〉大正十年～昭和十九年

『幼児教育』（第二三巻第八号まで）

『幼児の教育』（第二三巻第九号以降）

## 〔刊行〕

名著刊行会

## 〔定価〕

現金価格二二五、〇〇〇円

## 〔申込・問合わせ先〕

総発売元・株式会社コーディック

東京事務所 千代田区神田神保町三二二五 精和ビル

TEL (〇三) 二九五―三五六一

大阪本社 大阪市西区北堀江三一六―二三

TEL (〇六) 五三一―九八〇一

## 『幼児の教育』復刻記念懸賞論文募集

このたび、雑誌『幼児の教育』復刻を記念して、左記の要領で論文を募集することになりました。多くの方々が、優れた論文をおよそくさいますことを、期待しております。

### 〔記〕

- 一、第一期、第二期の復刻『幼児の教育』を素材として、独自の考察を試みたものであること。
- 一、応募期日 昭和五十六年九月末日まで
- 一、応募要領 ペン書き（またはボールペン）とし、四百字詰縦書き原稿用紙に四十枚以上百枚以内。上表紙に「復刻記念懸賞論文」と朱書の上、「論文題目」「姓名」「住所」「所属」を記入のこと。審査は上表紙を外し、本文のみを対象

として行ないます。尚、名前入りの原稿用紙は御遠慮下さい。

### 一、賞金及び賞品

最優秀賞一名 賞金二十万円

二等賞 二名 五万円

三等賞 三名 一万円

参加賞 全員 記念品

最優秀論文は、本誌に掲載いたします。

### 一、問い合わせ及び応募先

〒112 東京都文京区大塚二―一―一 お茶の水女子大学附属

幼稚園内 日本幼稚園協会『幼児の教育』編集部

尚、電話での問い合わせは御遠慮下さい。郵便でお願いいたします。

主催 『幼児の教育』編集部

後援 株式会社コーディック

## クダケスタン・ジャポニ（イランの日本人幼稚園）①

進藤 君 枝

ザクロス山脈の一部エルブルズ山頂に、まだ雪が残る一九七七年の四月はじめ、新しい任地イラン国テヘラン市のメヘラバード国際空港へ到着しました。空港はノールズ（イスラム暦の新年）のためかシーンと静まりかえっていました。あたりには女性の姿はほとんどなく、ほりが深く鋭い人をにらみつけるかのように思える目つきで、じっと私をみつめるイラン人に接した時、異国にきたのだなと心がひきしまる思いでした。

空港正面には、めずらしい飾りがかざられていました。わが国

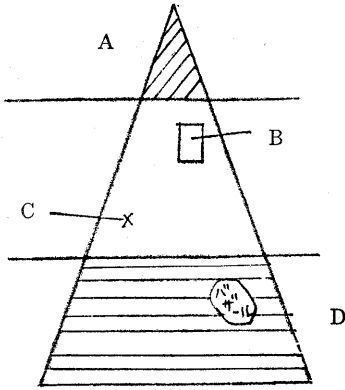
のお正月には、おそなえを飾り祝いますが、イランでは特別の布の上に発芽した鉢・コーラン・鏡・着色された卵・ロソク・金魚を入れた鉢・リンゴ・酢などベルシャ文字の頭文字でスイーンではじまる品物がならべられます。どの家庭にもこのような飾りが用意され、これを囲んで新年を迎えます。新年を家族で祝ったあと、家長が子ども達にエディ（お年玉）を配りそして年始まわりにでかけるのです。このノールズの期間が二週間あり、この期間を利用して旅行にでかける人達が多くテヘランの町は静かにな



ります。

幼稚園役員K氏の車で任期中滞在场所となるアザディガン家へ向います。アザディガン家は町の中央部にあります。テヘランの町は坂の町といわれ北部と南部にわかれています。人口分布は、ピラミッド型で北道の山頂近くには、少数の上流階級の人々の住居がたちらび底地に近づくに従い貧しい人々の住居がふえていくといわれます。

日本人の多くは、高級住宅地の一部に住む家庭が多く、日本人幼稚園もその中に位置しています。テヘランの交通は、地下鉄・電車などではなく、バス・自家用車・ハイヤー・乗り合いタクシー



- A……超高級住宅地ミエミラン地区  
(革命の時、海外へ脱出したもの多い)
- B……日本人が多く住んでいる地域
- C……アサディガン家
- D……革命を支えた人々が住んでいる

ハイヤー	1時間	300リアル
オレンジタクシー	1区間	15リアル
	その後	5リアル増
バス	全区間	15リアル

1リアル 約2.5円

のみで行動しなくてはなりません。乗り合いタクシー・バスは町に近づくに従い多くなり、幼稚園の近くでは、あまり利用することはできません。アザディガン家は、この乗り合いタクシーが(通称オレンジタクシーと呼ばれます)自由に利用できる場所にあります。大きな通りには、いつでもこのオレンジタクシーが走っています。道ばたで大きな声で行き先を告げますと、その方向に行く車がとまります。テヘランの町は碁盤の目のように整備されており、交差点には大きな広場があります。広場の名前・上へ下へ・生まれ・これだけを覚えれば運転手に行き先を告げられ自由に乗れます。日本人の間では、このオレンジタクシーを自由に

乗りまわせる人はあまり多くありません。私は日本のタクシーに比べ、便利で安く合理的なオレンジタクシーが好きでテヘラン到着の次の日から、地図を片手に乗りまわしていました。

テヘランの気候は、海拔一二〇〇メートルの高地にあり夏には四〇度以上の厳しい暑さになります、が乾燥しているため余り不快には感じません。冬は零下になり四〇センチ程の雪が積ることもあります。夏と冬が長く春と秋は、あっとい間にすぎ去ってしまいます。雨は年間を通して少なく、私が日本から持っていった傘も、三年の滞在期間中に、二、三回しか使用しないで済みました。テヘランの町には手入れがされた大きな公園、木々が多くあり町の人々は緑を大切にします。日本では余り手を加えなくても緑は育ちますが乾燥度の高いテヘランでは、充分に配慮しなくては、緑は育ちません。それだけに育った緑は大切にされるのです。メインストリートの旧パーレビ通り（革命後モサデック通りに改名）には、朝夕に山の手から下町にむけて水が流されます。下町の方ではその水を利用して洗たくや食器洗いがされているような場所もあります。通りの両側には充分な太陽と人々の努力による水で育った大きなチエナールの木々がそびえたっています。ノールズが終るころから暖かくなり短い春を迎え、五月中旬ごろからは厳しい夏がやってきました。チエナールの新芽もめぶきから

あっとい間に二〇センチ位の大葉に育ってしまおうです。夏の夕暮れには、どこからか決まった時間にすずめの大群があらわれ、旧パーレビ通りの一道をにぎわせるのです。秋近くなりますと不思議なことにその大群は、どこかへ消え去ってゆきます。

### ——アザディガン一家——

イランでは、ファルシーと呼ばれるベルシャ語がつかわれます。上流社会の人々はフランス語・英語なども使用しますが、私が接するイラン人の多くは、日常「ベルシャ語」を使用します。

幼稚園の仕事を終え、帰宅してから夕食を済ませアザディガン一家と過す時、私にとって楽しい一時でした。イランの習慣でイラン女性は余り買い物にでかけません。アザディガン家も主人が毎日出勤前には山ほどの買い物をしてきます。イランの家の多くは、レンガ作りで床にはじゅうたんが敷かれています。上流社会の人々は西洋式の生活をしていきますが平均的イラン人の家庭では、入口で靴をぬぎじゅうたんの上に直接座ります。アザディガン家の夕食後は、じゅうたんの上にビニールの敷き物（テーブルがわりに使用）を敷き座って果物やチャイ（煮出した紅茶）を飲み家族で団らんの時をもつのです。乾燥しているためかイラン人

はよくチャイを飲みます。どこへ行っても何杯もたされます。砂糖は、ガンドという固い砂糖がだされ、それを先に口の（に含んでおき、そのあとチャイを飲みます。これがイラン式飲み方です。果物もリンゴ・ミカン・数種のぶどう・さくらんぼ・スイカ・ザクロ・桑の実・メロン・きゅうり（イランでは果物として食べます）四季それぞれの果物を充分味わたったのもこのアザディガン家の夕食後の一時でした、イラム暦では金曜日が休日となりま

す。木曜日には、家族・知人が集まり雑談の時がよくもたれます。このような集まりには、親族・親しい知人のみでメンバーがいつも決まっているようです。親族のつながりが深いこの国では、余り他人を快く受け入れることはしません。そのような面では大変閉鎖的な社会です。

イラン人の中には、詩を愛する人が多くいます。地方都市・イスファハンやシラーズには、大きく美しく整備された有名なベルシャ詩人ハーフェーズやフェールドシー等の墓があり観光地となつています。アザディガン氏も詩をつくるのが好きで良く聞かされました。子供達の誕生日には、その子供のために必ず詩がつくられ誕生パーティの場で披露され子どもの成長を喜びあうのです。

イスラム社会では、女性が積極的に外にでることを嫌やがります。

す。外へでる時は、チャドール（体全体を包みかくす布）を頭からかぶります。教育を受けた人々、上流社会の人々はこのチャドールの使用を好みません。アザディガン夫人は仕事をもち進歩的な考えを持った人でしたので平常は使用しません。しかし毎日行なわれる家庭での午後の礼拝時には、白いチャドールをつけメッカの方向にむかって額を地につけ祈っていました。モスクイスラム教の礼拝堂からは夕暮れ時になりますとスピーカーを通してコーランの調べが流れます。幼稚園近くの大きな家の門番も夕暮れ時には、メッカの方向にむかってコーランをとえます。そして身を清め祈りの一時をもちます。夕暮れ時のコーランの音を聞いていますと、今日も一日が無事終り又新しい明日が出発するのだなと思わずにはいられません。

テヘランの一日は、朝早くからはじまります。町の中央通りは、七時半位には通勤・通学の車で混みあい、午後一時ごろから四時位までは、昼休みとなります。多くの商店・マーケット等はシャッターをおろし昼食をとり昼寝です。

真夏の暑いころは、道ばたの木かげでゆっくりと昼寝をしている人ともみうけられます。日本人にとって、午後の三時間も休息の時間など考えられません。私もテヘラン入りしたころは、仕事を終え「さあ！町へ出発だ」とはりきってでかけると、町は

シーンと静まりかえり人の姿もあまりみられません。退屈で困りました。しかし夏の暑さを体験したあと、この地で生活してゆくためには、いかにこの午後の休息時間が大切なのかがわかりました。なまけものではないのです。イランの気候・風土の中で生活する人々の生活の知恵なのだということを感じられました。

アザティガン家には、ナーデルという大学受験をひかえた青年がおりました。彼も私の良き話し合い手でした、不思議なことに、当時知識がある人・良き職を得ている人程、「イランは良くない。このままではすべてがダメになってしまう。こんな国から早く逃げだすのだ」という声を聞いたのです。政治・経済・価格・交通事情全ての面から不平不満を言っていたのです。私は日本人として日本の良い面も悪い面も知っているつもりです。でも日本が好きです。良い国になって欲しいと思います。

ある日のこと、

「ミス・シンドウ、イランはためなのだ。全てがダメなのだ。全てがかわらなくて、どうすることもできないのだよ。」

ナーデルは言いました。

私にはわかりません。私のつたないファルシーと英語で

「何故不平不満ばかり言っているの？ 不平不満があるのな

らば、何故行動しないの？

若者こそ行動できるのよ。行動しなくては……そしてあなたたちの国を良い国にしなくては……」

彼はだまって首を振るだけでした。

「ミス・シンドウ 決してこのことについて、他の人の前では言っていないよ。」

我々の国では、王様の悪口、政治の話は口に出してはいけません。S A V A K (秘密警察) がいつでも見張っているのだから……」

ナーデルは大変純粋な青年でした、彼なりに考え苦しんでいたのです。イランの国内で抑圧されていた人々の力が一年後の王制打倒の大きな原動力となったのだと思います。

革命後の一九七九年六月、テヘランに戻った時ナーデルは、「ミス・シンドウ、この本を読んで下さい。そして少しでも我々の信ずるイスラム教について知って欲しい」と一冊の小さな「イスラム革命」という本を手渡されました。彼の顔はいきいきと輝やいていました。

何もかも新しい生活と発見で、一年を無事終え新年を迎えようとしている時、アザティガン氏が「さあ、山へたき木を拾いに行こう」と誘いにきました。山といってもわき水の流れているとこ

ろには、木が点々と繁っていますが、他の所は水がなくても育つとげをいっぱいもった雑草のようなものはえている所です。赤土の土漠と呼ばれている所です。たくさんの乾燥しきった小枝をアザディガン家の人々と拾いました。アザディガン家だけではなく他の家族もたくさんきていました。どの家族もそれらのかれ木を山のように車に積んでかえっていきます。家では新年を迎える為に大掃除です。新しい衣類の買い出しで、衣類品店は満員です。

ノールズ前の最後の水曜日は、「チャールシャンベスリエー」と呼ばれ集めてきたかれ木が庭や道路につまれます。

日がくれあたりが暗くなったころ、子ども達の歌声が聞えてきました。

お前は私から黄色（病い）をとり

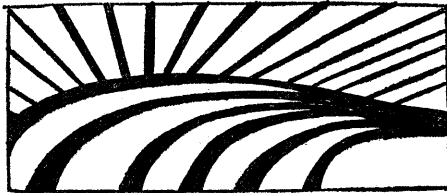
私はお前から赤（健康）をもらう

お前は私から冷たさをとり

私はお前の暖かさをもらうのだ

道はたに集まった子供達は、この歌をうたいながら火をとびこえて遊ぶのです。そして新しい年への準備をするのです。

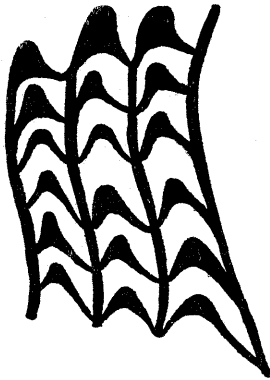
今回は日本企業の駐在員の子弟としてテヘラン滞在していた子ども達とすごした日々、イランのクダケスタン・ジャポニ日本人幼稚園について綴ってみたいと思います。



## イギリスにおいて絵本は

### どのように発達してきたか

三宅興子



#### はじめに

絵本が、幼児の生活に欠くことのできないものであるという認識は、『幼稚園教育指導書（一般編）』をみるまでもなく、なんとではなく一般化してきており、保育園、幼稚園、児童図書館などでは、その選択に困るほどの多様さをみせ、また、年々、多量に出版されてきているのが実状である。その反面、なぜ、絵本が必要なのか、幼児の発達とどうかかわるのか、どのように導入するのか、といった根本的な問いかけには体験的な、あるいは、子どもが喜ぶからという結果論的な解答しか得られないのも、実状であろう。そして、「絵本は遊びの世界、楽しみの世界なのである。学問の対象にはならないし、しないほうがいいのである。」（「ひろば」第六十号）という日本の絵本界を絶えずリードしてこられた武市八十雄氏のような声もきこえる。

しかし、真の学問には人間にとってもっとも重要なものとして当然遊びや楽しみの研究が含まれてい

るし、含まれるべきでもある。絵本という媒体には、文学、美術、教育、技術、児童観などの側面に、理論、歴史、実践をそれぞれ重ね合わせて考察していける学際研究が成立する可能性がある。学問として未知の分野であるだけに、それだけ、興味もつきないように思われる。そこで、原資料が入手しやすく、今日の概念で絵本という定義にはまるものを出版して百年以上の歴史をもっているイギリスに焦点をあてて、どのようにして絵本が成立してきたのかさぐぐってみることにした。ささやかな、絵本研究への第一歩である。

## 一、大人の文化・子どもの文化が未分化の時代

絵本の歴史をどこからはじめるかということでは、例えば、日本の絵巻物『鳥獣戯画』を最古の絵本として、アメリカの学者がとりあげていたりする。しかし、絵本を印刷による複製芸術と考えている者には、その見解では無理である。イギリスという狭い地域に限ってみると、やはり、チャップ・ブックスあたりからというのが順当であろう。

チャップ・ブックスとは、十七世紀の後半から十九世紀にかけ

て、もっとも普及していた小型本（八、十六ページが多い）であり、出版のさかんであった十八世紀のものは、そのほとんどが、教育を受ける機会のなかった庶民の大人を対象として、一ペニ、半ペニーのような安価に売られたものである。十八世紀末になると、他の印刷物週刊誌などに押され、衰退していくが、十九世紀に入っても、子ども向けに出版されたものは、洗練され、色彩刷りも加わって質が向上していった。

チャップ・ブックスがイギリス全域にわたって普及した背景には、本を読むという行為が、社会のかんりの階層にわたって個人体験として成立する教育制度の発達と、印刷術の進歩にもなつて出版業が企業として成立しはじめたことがあげられる。十七世紀末には、チャリティー・スクールとよばれる教会に付設された読み書きと、教義問答を教える簡易な学校が各地にできていたのである。企業として（といっても家内工業ではあるが）出版業を成功させた人としては、ウィリアム・ダイシー William Diey が有名である。彼はエリザベス朝の小話をあつめたものや、バラッドの一枚ものを発展させ、チャップ・ブックスにつきものの多数の主人公たちを創み出していったのであった。地方出版も盛んで、バンバリーの J・G・ラッシュャー Rasher やヨークの J・ケンドリュー Kendrew などは、十九世紀に入って子ども向きの小

型本を次々と出版している。一般民衆を対象とした消耗品の性格をもっていたのでその全容をつかむことは、かなり困難であるが、木版による挿絵がついていること、内容が多岐にわたっていること、6×4インチ（十九世紀には、それより小型の3・5×2・4インチ）という小型本であることなどの特徴がある。

内容があらゆる分野にわたっているので、その中で特に子ども読者によく読まれ、今日の絵本のような役割をはたしていたであろうと思われるものにしぼって分類してみると、まず、昔話や中世のロマンスに題をとったものがあげられる。教訓や教科書的なものが幅をきかせていたなかで、十九世紀中葉の創作児童文学の底辺をなし、物語のおもしろさ、楽しさを伝えてきたものとして、チャップ・ブックスの意義づけには必ず、引きあいに出されるのである。「巨人殺しのジャック」「親指トム」、グリムやペローの再話、「ウォリックのガイ」「バレンタインとオースン」など、非常に種類が多いのである。また、名作の再話（「ロビンソン・クルーソー」「ガリバー旅行記」など）も多かった。

第二には、伝説や歴史に題材をとったもので「ロビンフッド」ものはもっとも人気が高かった。聖人の伝記や史実を簡単な物語にしたものなどがある。

第三には、幽霊話や占いの本で、特に、土地土地に残る幽霊に

まつわる話はくり返し出版されている。第四は、笑い話で、「ゴータムの賢人」や「さかさま」などのナンセンスは、子どもたちに繰り返しよまれたものであろう。また、なぞなぞ類も数多い。

第五には、宗教書である。初期のものには、啓蒙的なパンフレットのようなものが多いが、日曜学校派といわれる人たちが抬頭してからは、内容的に粗雑なチャップ・ブックスは非難をあび、子ども向きに「良心的」な（したがっておもしろさにかける）ものが出版された。最後に、教科書的な役割をはたしたものがあげられる。十八世紀末になって子ども向けのものが分化してくるにつれ、ABC絵本や、国語読本などが数多く出版された。

これらすべてには、稚拙であっても魅力のあるさし絵がついていて、絵本と同じ働きを持っているし、子どもの文学の中で大きい位置を占めている伝承文学を本という形の中に定着させていった功績は大きいものがある。

また、大人のために仕事をしたが、結果的に子ども読者がつき、絵本の成立に大きい役割をはたした二人の画家についても触れておきたい。

トマス・ビーウィック Thomas Bewick（一七五三—一八二八）は、一七七〇年代に版画に新しい手法を工夫した技術革新の面と、さし絵にイギリスの田園や自然を描いて今日でもよく使われ



る消耗品ではない独創的なカットを残している点で著名である。そのビーウィックが二十歳前後に、子どもの本づくりをやっている。粗雑でやつつけ仕事の多かったチャップ・ブックスのなかで、例えば『幼な子のための鳥と獣の本』*New Lottery Book of Birds and Beasts for Children to Learn Their Letters By As Soon As They Can Speak* (一七七二)は、左ページに文字、右ページには上に小鳥、下に動物がかかれ、それぞれふち飾りの模様でかこまれている百ページをこえる小型本であって、絵本と図鑑の二つの役割をもつ革新的なものであった。

ジョージ・クリックシヤンク *George Cruikshank* (一七九二—一八七八)は、技法的に、トマス・ビーウィックの伝統を受け継ぎ、ホーガスにはじまったイギリス庶民の風俗を描く諷刺画家として多数の作品を残しているが、その歴大な作品群の中に、子ども向きのものが多々みられ、絵本とさし絵入り本の未分化の時代の画家として絵本史の上で高い評価が与えられている。十二歳よりプロとして働いており、その無名時代には、チャップ・ブックスを多数制作しているが確認するのは困難がある。今日も複製されているものとしては『コミック・アルファベット』(一八三六)が著名であり、一場面ずつの動きがあり、ドラマが語られていて、おかしさと、内に秘めたグロテスクさが、並のABC絵本と

は違った味を出している。

## 二、子どもの本屋さん——ニューベリーとハリス——

十八世紀の子どもの本を語るとき、必ずあがってくる人物に出版人ジョン・ニューベリー *John Newbery* (一七一三—一六七)がいる。ニューベリーが出版した本は、彼の出版業全体の約四分の一、百二十五冊であるが、その値段は、六ペンスないしは、一シリングと、労働者階級には高すぎるが、中産階級の下層にはかろうじて手の届く値段であり、一ペンスであったチャップ・ブックスが消耗品であったのと比し、高級なものもマーケットとして成立することを実証した、代表作とされる。『小さくて、かわいい小型本』*A Little Pretty Pocket-Book* (一七四四)は、九〇ページ、さしえ五十八葉が入っており、内容も子どもの遊びを四行詩としてABC順に並べて、教訓をつけたもの、イソップ寓話四篇、トムとポリーへの日常の教え、四季のこと四十六篇の格言集ともりだくさんである。ニューベリーは子どもにとって必要なものは、健全な道徳や知恵であり、興味をひきながら教えようとする意図をはっきりさせており、さし絵も本文も独創性に乏しく、当時のものを集大成したもので、その水準を知るのに、資料とし

て貴重である。

また、ニューベリーの本にあらわれた主人公、たとえば、ジャイルズ・シンジャーブレッドや「くつこつちゃん」をみて、一貫して精励努力して六頭立ての馬車にのるような身分になれる少年と、その隣りに坐る婦人となる少女が、理想像として描かれており、保守的な児童観、文学性の乏しきで、時代をつきぬけるものとはならなかったが、当時のものとしては、教訓臭が少なく遊びを重視したことは評価される。

ニューベリーの出版業をひきついだ、ジョン・ハリス John Harris (一七五六一—一八四六) は、ニューベリーのおかげにあって充分には研究されていないが、新しいアイデアを商売に成功させることでは、遜色なく、メタル・プレートによる印刷、手彩色のものを同時発売など、画期的な業績を残している。

ハリスの出版したもの(常時二百冊以上がカタログにみられる)のなかで、もっとも著名なものは、一八〇七年の『ちょうちんの舞踏会』 *The Butterfly's Ball and the Grasshopper's Feast* である。絵本という意識や概念がまだはつきりしていなかった時代にあつて、時代の要求に合致し、生み出された、いわゆる創作絵本といえるものであったからである。タイトル・ページには、作者の名前も画家の名前もあがつていないが、作者が名士でありか

なりなのがわかっている。原文が「ジェントルマンズ・マガジン」一八〇六年十一月号に掲載されているのである。テキストにわかれた詩の作者、ウィリアム・ロスコー William Roscoe (一七五三—一八三一) は末息子ロバートの誕生祝いとして即興的に詩をつくったが、それがもたになつており、詩は息子だけではなく、まわりの人々にも愛され、作曲されたりもしていたのだ。その全く教訓臭のない、楽しい詩に目をとめたハリスは、ただちに絵本にした。初版は何部刷られたか記録が残っていないが、その年の終りまでに二万部を売りつくし、メタルプレートがすりきれたてしまひ、その翌年には、全く版をかえて出版されたのである。

(初版では、昆虫が擬人化されて描かれ、さしえの比重が高いのにくらべ、再版では、ロスコーの詩をそのまま省略なく使つており、絵の比重が少なくなっている。) いろんな動物が次々とパティにやつてきて、踊ったり、食事をしたりして楽しい一夜を過ごすというストーリーは、一つのパターンとなり、ただちに模倣作を生んでいき、直接の影響を教えられるものだけでも二十数篇はあげられるが、パターンとしては今日も同じ系列のものが出版されているのである。

ハリスのカタログを見ても、子どもを喜ばせるためにだけつくられたものは数少い。読んでもらう絵本の働きを考えると、読

者によびかけるところからはじまり、いつのまにか昆虫たちのパーティーに連れこまれ、最後に夜になって家に帰るといふ構成は、幼児の心理にうけ入れられやすく、続々と模倣作を生んだゆえんでもある。また動物が主人公であって、いろんな動物を楽しむことができるといふことでも、子どもと動物との深い結びを考えるとき動物絵本の一つの時代を拓いたものともいいうる。一八六〇年代まで版を重ね、一八七〇年にはアメリカ版も出るというロングセラーとなったのである。

### 三、絵本の成立とエドモンド・エバンス

絵本の歴史の上で、一八六〇～八〇年代は画期的な時代であった。手彩色しかなかったさし絵の世界に色刷が入り、印刷の発達とともに、今日われわれが「絵本」といっている独自のジャンルが確立した時代だからである。

いうまでもなく、絵本が成立するには、絵本画家、出版者、読者が必要であり、商品として複数で（多量に）売られるものである。エドモンド・エヴァンズ Edmund Evans（一八二六～一九〇五）は、木口木版の印刷技術のすぐれた職人として、色刷りの絵本を飛躍的に発達させ、今日でも通ずる三人の絵本画家ウォルタ

ー・クレイン Walter Crane（一八四五～一九一五）、ランドルフ・カルデコット Randolph Caldecott（一八四六～八六）、ケイト・グリナウエイ Kate Greenaway（一八四六～一九〇二）を世に出した。見方によれば、画家よりも、それを複製する仕事の方がより重要な時代でもあった。エヴァンズは、一八四七年に独立し、生涯を画家の絵を印刷する職人として過した。五二年に、三色刷り（茶・青・黄）でスタートしたのは、安価であり、早くでき、また色が鮮明であって出版社の要求と合致したからであったが、一八五六年七年より、ジョージ・ルートレッジ社と関係ができてからは七色刷り、または、それ以上の多色刷りを手がけ、多様な画家とのコンビによって腕にまがきがかかった。六一年には、タイトル・ページに名前が出るようになっていった。いいものをつくれば、多少高価であっても必ず読者がついてきてくれるという考えが確立していき、一八六五年に、「トイ・ブックス」の仕事によって、ウォルター・クレインとの出会いがあり、この分野で後世にも名前が残ることとなった。同業者の娘であったグリナウエイ、新しい才能を求めていて、さし絵入り新聞や雑誌の仕事より、じっくり落着いた仕事をやりたがっていたカルデコットの発見があり、三人三様の相異なる才能を生かして、それぞれに魅力をもつ絵本をつくり、現在も版を重ねている事実を考えると

き、エヴァンズのはたした役割は大きい。しかし、彼の『回想録』をよんでみても、これといった絵本観をもっていたのではなく、色刷りの技術の発達した当時において、もっとも、力量を発揮できる場をみつけたわけであった。

当時、粗末で品の悪い絵本の中で、もしよいデザインの、芸術的な美しい絵本があれば、民衆の支持がえられるという考えを出版社に説く一方画家を物色していたエヴァンズの目にとまったのが、著名な肖像画家の子どもとして生まれ、若くして画家として出発したばかりのウォルター・クレーンであった。一八六五年、二十歳で『鉄道のABC』*The Railroad Alphabet*をはじめとして、十年位の間、確認されているだけで約四〇冊の絵本を出している。版權はなく、画家名も年代も明記されていない絵本のシリーズであったが、何度も版をあらため、繰り返し出版された。サイズとページ数はすべて同じで、四枚の紙に片面だけ印刷し、表紙と一ページ目と最後のページを糊づけして貼りあわせ、三枚は半折してはさみ、閉じてある。『六ペンスの歌をうたおう』*Sing a Song of Sixpence* など、わらべ歌の絵本では、一枚一枚の絵に動きがあって人物の表情もたくみであり自由に描かれた線が美しい。ABC絵本では、その装飾的なデザインと構図に秀れている。それにくらべ、物語絵本では、一枚一枚の絵はすぐれて

いるにしても、ストーリーと絵の関連が不自然で流れがなく充分に成功していない。クレーンの代表作は、『赤ちゃんのおペラ』*The Baby's Opera* (一八七七)、『赤ちゃんの花束』*The Baby's Bouquet* (一八七八)、『赤ちゃんのインソップ』*The Baby's Own Aesop* (一八八六)の三部作である。ほぼ四角い本に、黒をふちどりに使ってあと一色か二色で飾り、三番目に、一ページの多色刷りが入った五十六ページからなる五シリングの本であった。高すぎて危険だというまわりの反対を押しきって発売したところすぐ一万部を売り切り、エヴァンズの自信を深めた作品となった。クレーンの仕事全体からすると絵本製作はほんの初期のものにすぎないにしろ、一作ずつ、手を抜かず製作した良心とその芸術的に絶えず向上していこうとする実験心が、絵本を芸術といえるものにしていったのである。

ランドルフ・カルデコットの場合は、アービングの『スケッチ・ブック』にさし絵をつけ、『オールドクリスマス』(一八七五)というタイトルで出版されたものが、クレーンが忙しくなり、その後継者を探していたエヴァンズの目にとまったのである。その絵のユーモアと獨創性によって人気の多かったカルデコットであるが、病身であることもあって、メ切に迫られるあわただしいジャーナリズムの仕事よりも、落着いた仕事を求めている。一八七

八年より毎年二冊のペースでコンビを組んだが、八十五年に十六冊目を出版したところで健康がすぐれず、翌年、病没している。

カルデコットは、イギリスの新聞、雑誌のさし絵が写真にとつてかわられる直前の高い水準、単色刷りから多色刷りへの移行期、

農業から工業化の過渡期という時代にあつて、風景画と人物画というイギリス美術の伝統を新しいメディアである絵本として結晶させたのである。十六冊は、わらべ歌、古歌、バラッドなどをテキストとして、大量に（初版一萬部）、安価に（色刷り一ページにペン画三ページの構成をとつた）、出版された。一冊ずつが絵に、流動感の動きがあり、ユーモアにあふれ、細部に発見があり、動物や自然描写にすぐれ、画面と文字の配置を工夫し、その中で遊べるユニークな世界をつくっている。

ケイト・グリナウェイの場合は、父親が同業者として、娘の絵を知人エヴァンズに見せたところ、エヴァンズは画の獨創性にうたれ、ただちに、全ページ多色刷りの絵本をはじめてつくるという冒険にふみきつた。『窓の下』*Under the Window*（一八七八）である。絵も詩もケイトによる創作絵本であつた。初版を思い切りよく、二萬部として六シリングと高価であつたが、すぐ売り切れ、七萬部増刷、フランスやドイツに三萬部輸出という大ベストセラーとなつた。国際絵本のはしりでもあつた。

花々、果物のなつている樹、庭園、牧草地などを背景に、帽子をかぶり、四角くカットされたハイ・ウェストのすその長い古風な服装の子どもたちが、歩いたり、遊んだり、飛んだりはねたりしている、ケイトの絵本（あと十冊ばかり残っている。）に共通する世界は、当時ですら、古き良き時代だと思わせるものであつた。ビクトリア時代の繁栄の中にあつて、一見、明るく楽しげなはずの子どもたちを、思いつめたような悲しげで真剣な顔つきに描き出したケイトの内面については、知る資料がないので推察するほかないが、種々の矛盾があふれて出した時代の反映として、守るべきもの、彼女のユートピアの主張のように思われる。ケイトの絵ほど、これも国際的模倣者を多数生み出した例はないが、その中にあつて、はつきりこれは、ケイトとわかる獨自性は、得がたく、現在も愛しつづけられている。ジョン・ラスキン John Ruskin（一八一九—一九〇〇）が一八八三年、オックスフォード大学の講義において、彼女の絵本の魅力を分析し支持したこともあつて、書簡を交換しあい、助言をえて一作、一作と、工夫をこらし、絵本の可能性をひろげていった。

#### 四、二十世紀

その後の絵本の発達は目覚ましく、プロの画家だけではなく、そこにいる子どものためにつくられた『手づくりの絵本』なども加わり、ますます多様になっていった。

十九世紀からの伝統をうけつぎ、それを、発展させた二十世紀のはじめ活躍した画家としてレスリー・ブルック Leslie Brooke (一八六二—一九四〇) があげられる。ブルックは、昔話絵本、わらべ歌絵本、創作絵本をつくったが、この三つの群は十九世紀の絵本の代表的な分類と共通しているのである。ブルックの代表作『カラスのジョニーの庭』*Johnny Crow's Garden* (一九〇三) は、『ちようちようの舞踊会』のパターンをとり、そのユーモアにおいて、カルデコットを継承している。彼の独想的なところは、文字にないストーリーが絵によって語られているところで、絵本というジャンルの一つの完成をみたものといえるかと思う。ブルック以降については稿をあらためることにするが、以上のように、イギリスの絵本は、その時代の要求と、人々のくらしや経済的基盤をもとにし、技術の革新によって、新しい芸術家を育て、過去のを、踏台にして、発達してきたのである。そして単に子どもを喜ばすメディアとしてだけでなく、画家が、多数の民衆にその芸術をわかちあうことのできるものとして、幼児向きというわくをひろげ、チャップ・ブックスとは、質・量とも

に相異するとしても万人のものとして、注目を浴びはじめてきている。

なぜ、絵本なのかという問いかけは、ますますその必要度をましているように思われる。

(大谷女子短期大学)

#### 付記

この稿は、日本保育学会より、第二十五回倉橋賞をいただきましたことを機会に、過去九回にわたり発表いたしました「イギリス絵本成立史研究」を、整理し、編年体にとまとめたものです。

#### 訂正とお詫び

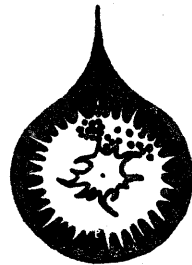
表紙題字比田井和子氏の氏名を、一月号目次で誤まって日田井和子と印刷されました。一部訂正洩れの地域がありましたことを、謹しんでお詫びするとともに訂正致します。

編集部

〔史料紹介〕

## 『邦訳 日葡辞書』 ①

——わが国中世の児童文化史研究によせて——



『日葡辞書』は、十六世紀半ばから日本へ布教のためやって来ていた、イエズス会宣教師らの手によって編纂された、近代辞書の体裁を備えた日本語辞書である。布教をするにあたり、日本語を習得しようとしたパアデレ達は、熱心に日本語を研究し、話し言葉を中心に、二万二千余語にわたる日本語を採録、ポルトガル語で説明を付した『日葡辞書』を完成したのだ。一六〇三（慶長八）年、長崎で活版印刷により刊行された時には、しかし、キリスト教禁圧という厳しい時代を迎えていた。

さて、『日葡辞書』に採録された日本語は、その歴史的転

換の時代と並行して、国語史においても、古代語から近代語へ移りかわる、複雑な様相を呈しており、それらの“ことば”は、中世の歴史・文化の研究に貴重な資料を提供してくれる。昨年のこと、岩波書店より、待たれていた『邦訳 日葡辞書』が上梓され、身近に、この辞書を繙くことができるようになった。そこで、わが国中世の児童文化研究の好適な資料として、本書を役立てることを試みたいと思う。日本語をローマ字綴りで表記、そのアルファベット順で配列している辞書のなりたちに加えて、私共は“子ども”に関連した採録語を取り出してみた。そこから、当時の人々の、“ことば”

によって寄せた子どもへの心のありようを、読みとっていろいろと思うのだ。それら考察は、資料紹介の完了後、展開する計画である。

(M・M・M)

### A字で始まる語

アバレ、ルル(暴れ、るる)

子供が跳ね回る時などのように、騒々しくてむちゃくちゃである。

(例)コノ ワランベガ アバレテ タマラス(この童部が暴れてたまらぬ)この子供がこんなに跳ね回って騒ぎ立てるのには、何の手の下しようがない。

アカゴ(赤子)

生後一か月までの乳飲み子。

アクチ(緊膚)

まだ巢立たない雛鳥の嘴の付け根にある黄色い部分。ま

た、幼児の唇にできる一種の瘡、すなわち、膿疱。

アイシ(愛子)

アイスル コ(愛する子)または、オモイゴ(思ひ子)。

愛され、かわいがられている子。

アマヤカシ、ス、イタ(甘やかし、す、いた)

かわいがる、やさしすぎる取扱いをする。

アマヤカシゴ(甘やかし子)非常にかわいがられている子ども、あるいは、非常にかわいがって育てられた子ども。

アマエ、ユル、エタ(甘え、ゆる、えた)

子どもが親に情をこめたしぐさをしたり、やさしい言葉を使ったりする。

アマエゴエ(甘え声)

子どもが、何かをもらうために、母親やその他の人の心を動かそうとして出す、泣きそうな声、あるいは、心を打つ声。

アモ(あも)

モチ(餅) 婦人および子供の言葉。

アンビ(遊び)※註

楽しみごと、気晴らし。

(例)アンビヲ スル(遊びをする)遊び楽しむ、気晴らしを



する。

アソビ、ブ、ウダ（遊び、ぶ、うだ）

気晴らしをする、遊び楽しむ。

アソビタウグ（遊道具）

遊び楽しみ、遊戯し、あるいは、気晴らしをするのに用いられる物。

アソビモノ（遊者）

他人を遊び楽しませるようにする人、または、そのようなことを職としている人。また、時には遊女の意。

アソビタワムレ、ルル、レタ（遊び戯れ、るる、れた）

いろいろな物事によって心を慰め、遊び興ずる。

アザナ（字）

人が子供の時からつけている名前。また、本来の、すなわち、最初の名前。

※註

「遊び」という言葉位、子どもとかかわりの深い言葉は、

他にないと私達は考えているが、当時においては、大人の側のある状態を指していたようだ。すなわち、楽しみ、気晴らしという意であり、そこから大人の遊興、たとえば、管絃、狩猟、酒宴、囲碁・双六、物見遊山等が思い浮かんでくる。

では、子どもたちは、今日の意味で遊ばなかったのであろうか？ そんなことはあるまい。子どもが暴れる」というところこそ、実は、私達の感ずる「遊んでいる」状態ではなかったか。暴れている童部は、追いかけて、じゃれ合い、物の取り合いに余念がないわけであり、汗をぐっしょり流しながら駆け歩き、飛び回っているのだ。人形など、はっきりした小道具で遊ぶ姿を「雛遊びする」と捉えているが、そうではない、かたちとしては捉えにくい、子どものいきいきした動きは、当時においては、ただ「暴れている」と受けとめられたということではないだろうか。

一九八一年は、スタンレー・G・ホールが、児童研究をはじめから百年目の年にあたる。

ワントがライプツヒ大学に、実験心理学の研究室を設けて、科学的心理学の端緒を開いたのは一八七九年で、一昨年一九七九年は心理学百年の記念の年とされた。ワントのもとで学んだホールが、米国のジョン・ホプキンス大学に実験心理学の研究室を開いたのは一八八二年であり、それと同時に、ホールは児童研究をはじめた。ホールの研究文献目録を見ると、一八八二年には、運動の錯視などの実験心理学の研究と並んで、児童の道徳及び宗教訓練、意志の教育、一八八三年には児童の精神の内容、児童研究などがあらわれている。

この百年間の児童研究は、科学的心理学と共に進んだが、スタンレー・G・ホールは、乳児から、幼児童期、青年期、老年期にいたるまでの人間の生涯の

発達について、巾の広い人間の関心をもちつづけていた。進化論や精神分析に早くから着目していたのもホールであった。また、ジョン・デューイーと共に、子どもの自発的活動を中心とした新しい幼児教育を推進するのに、児童研究の立場から貢献したことは周知のことである。

児童研究百年の歴史のその後の動向は科学的心理学の歩みと同様に、科学的研究として精密化される方向に向った。それはホールの児童研究の一つの側面であったが、ホールの抱いていた人間そのものに対する関心は、その後次第に、児童研究の表通りでは軽視される風潮が生じた。児童研究の影響をうけつつ発展した近年の幼児教育が、ともすると人間不在の傾向に陥ったのも当然とも云える。

いま、児童研究第二世紀は、真に生きた人間に立脚した児童研究が作られることが課題であり、それは幼児教育の今後の歩みと切り離すことはできない。津守

## 幼児の教育 第八十巻 第二号

二月号 © 定価二七〇円

昭和五十六年 一月二十五日 印刷  
昭和五十六年 二月 一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行人

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内  
発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一  
印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一  
発売所 株式会社 フレーベル館  
振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御購誌についての御注文は発売所  
所 フレーベル館にお願いいたします

# キンダー **“科学する心”** を育てる教材 科学教材シリーズ

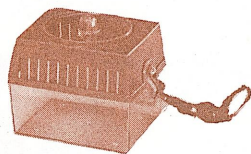
★ 1セット(年間12点)4,200円 ★ 1点350円

● 4月以後、毎月お届けいたします。

4月 **さいばいセット**  
あさがおのためつき



5月 **かんさつケース**  
(虫かご兼用)



6月 **とけい**



7月 **そくせいさいばい**  
かいわれだいこんのたねつき



8月 **みずでつぼう**



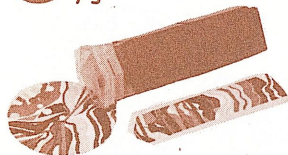
9月 **ふね**



10月 **みずさいばい**  
ヒヤシンスきゅうこんつき



11月 **まんげきょう**



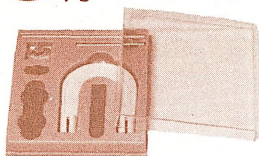
12月 **いとでんわ**



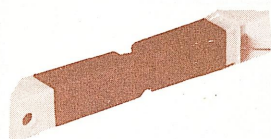
1月 **はかり**  
おもりつき



2月 **じしゃく**



3月 **かがみ**  
(せんぼうきょう)



くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所または本社営業課(03)292-7781(代)にお問い合わせください。

**フレーベル館**

フレーベル館の

# 月刊7誌 (価格据え置きです)

## 大きくのびゆく お子さまのための 月刊保育絵本



ワイド画面

情操をゆたかにし創造力をのばす  
キンダーブック①-情操  
4月号「おはなが いっぱい」  
●付録・こいのぼりの工作  
団体購読価 月 200円



豪華な上製本

幼児の美しい心を育てる  
キンダーおはなしえほん  
4月号「マリーさんのき」  
●付録・こいのぼりの工作  
団体購読価 月 300円



豪華な上製本

科学する心を育て自然に親しませる  
しぜん-キンダーブック③  
4月号「はるのむし」  
●付録・こいのぼりの工作  
団体購読価 月 300円

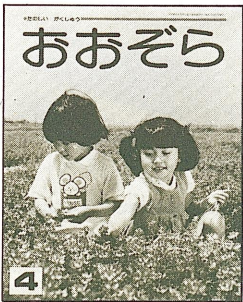


ワイド画面

観察の眼をそだて心情をゆたかにする  
キンダーブック②-観察  
4月号「みんなともだち」  
●付録・こいのぼりの工作  
団体購読価 月 200円



子どもの自主性をのばし  
ゆとりある保育を考える  
保育専科-今月のカリキュラム-  
●特集・これからの障害児保育  
団体購読価 月 350円



子どもたちの知的欲求にこたえるために  
のびやかなる保育  
おおぞら  
●別冊・おかあさんの本  
特別 あいうえおひょうかすのひょう  
付録 こいのぼりの工作  
団体購読価 月 300円



特製厚紙製本

幼児らしい夢をそだてる絵本  
キンダーメルヘン  
4月号「ピンちゃんのかいこく」  
●付録・こいのぼりの工作  
団体購読価 月 200円

くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所または本社営業課(03)292-7781(代)にお問い合わせください。

### フレーベル館